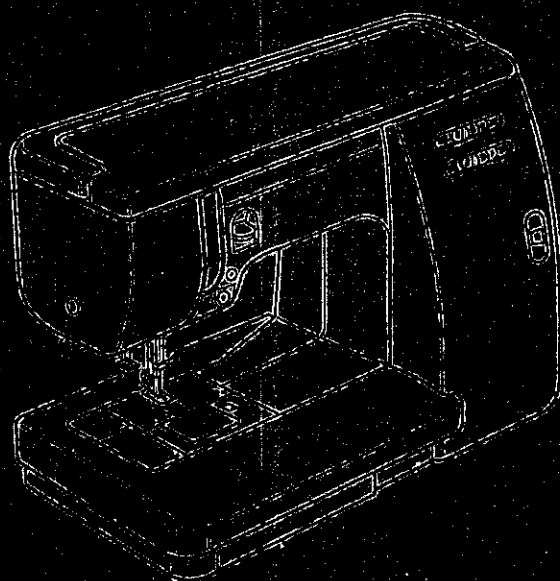


使い方の手びき

《取扱説明書》

EQULE 940
エクール



DAKINOT

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 For use in japan only.

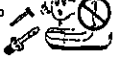
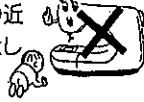
危害・損害の程度を表わす表示

 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	-------------------------------------	---	---

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 警告 感電・火災の恐れがあります。	
 必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	 必ずプラグを持って抜く 以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 

 注意 感電・火災・けがの原因となります。	
 分解禁止 お客様自身での分解はしないでください。 	 必ず実行 ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。
 接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。 	 必ず実行 お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。 
 禁止 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	 必ずプラグを持って抜く 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき ・上糸・下糸をセットするとき ・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行ってください) ・ミシンのお手入れを行うとき
 禁止 曲がった針はご使用にならないでください。 	 必ずプラグを持って抜く ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
 禁止 電源コードの上に、物をのせないでください。	
 必ず実行 針及び押さえは、確実に固定してください。又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。	

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

目 次

お取り扱いについてのお願い	2
●各部の名まえ	3
●標準付属品と収納場所	4
●補助テーブルの使い方	5

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方	6
●スタート・ストップボタン	7
●速さの調節の仕方	7
●上下停針ボタン	7
●返しぬいレバー	7
●ドロップつまみ	8
●押さえ圧調節ダイヤル	8
●押さえの取りかえ方	8
●押さえホルダーの取りかえ方	8
●押さえ上げ	9
●糸調子の合わせ方	9
●針の取りかえ方	10
●布に適した糸や針を選ぶ目安	10
●下糸の準備をしましょう	11-12
★ボピンを取り出します	11
★糸こまを取り付けます	11
★ボピンに糸を巻きます	11
★ボピンを内がまにセットします	12
●上糸の準備をしましょう	13
★上糸をかけます	13
●糸通しの使い方	14
●下糸を引きあげるには	15
●模様選択ダイヤル	16
●振巾スライドつまみ（ぬい目の巾調節）	16
●送りスライドつまみ （ぬい目あらし調節）	17

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい	18-19
★ぬい始め	18
★厚手の布端のぬい始め	18
★ぬい方向の変更	18
★ぬい終わりと糸の切り方	19
★針板ガイドラインの利用	19
●三重ぬい	20
●伸縮ぬい	20
●ジグザグぬい	21
●ジグザグぬい裁ち目かがり	21

●かがりぬい	22
●トリコットぬい裁ち目かがり	22
●ボタン付け	23
●ワンステップボタンホール	24-26
●芯入りワンステップボタンホール	27
●ファスナー付け	28-30
●三つ巻きぬい	31
●くけぬい（まつりぬい）	32

応用ぬいいろいろ

●アップリケ	33
●キルティング	33
●ピンタック	34
●パッチワーク	34
●シェルタック	35
●ファゴティング	35
●スモッキング	36
●スカラップ	36
●かざりぬい	37
●スーパー模様ぬい	38

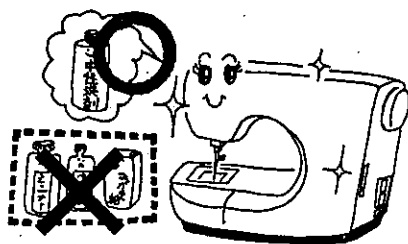
ミシンの手入れ

●かまと送り歯の掃除	39
●内がまと針板の組み付け	39
●ランプの取りかえ	40
●ミシンの調子が悪いときの直し方	41

おとり扱いについてのお願い

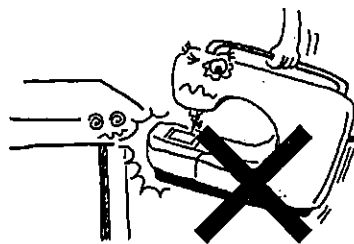
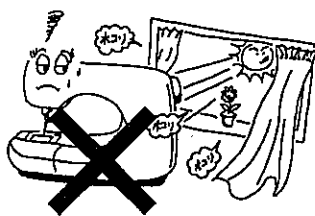
◇ご使用の前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇いつまでもご愛用いただくために

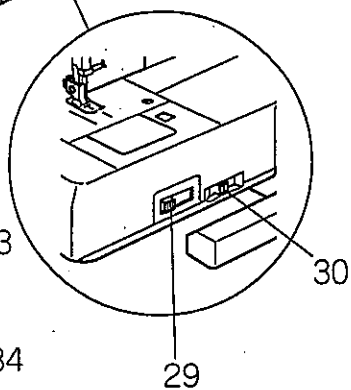
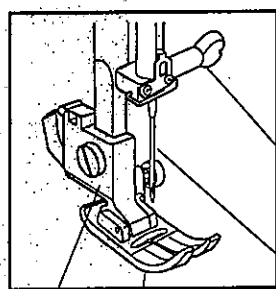
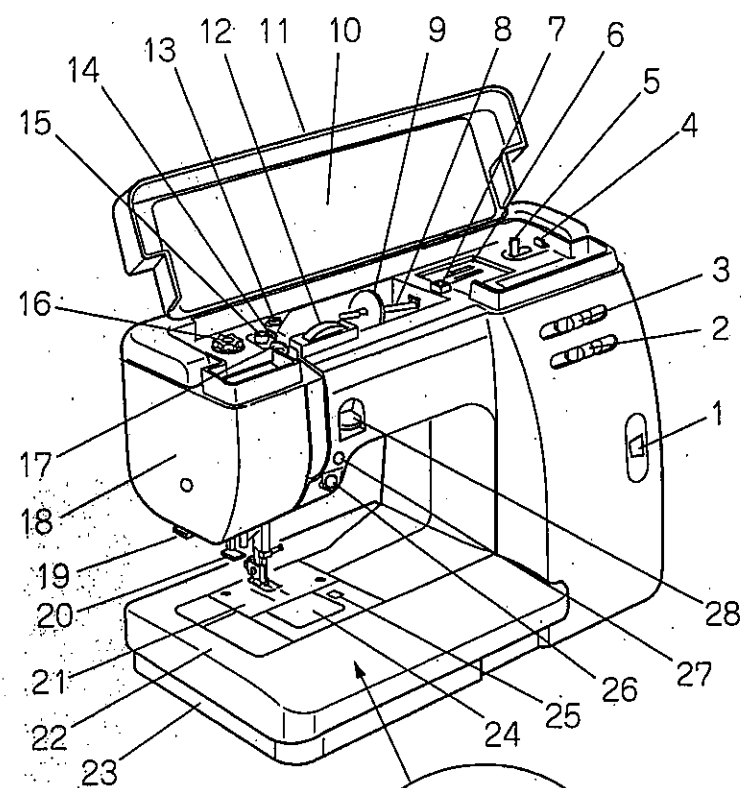
- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところはさけてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。



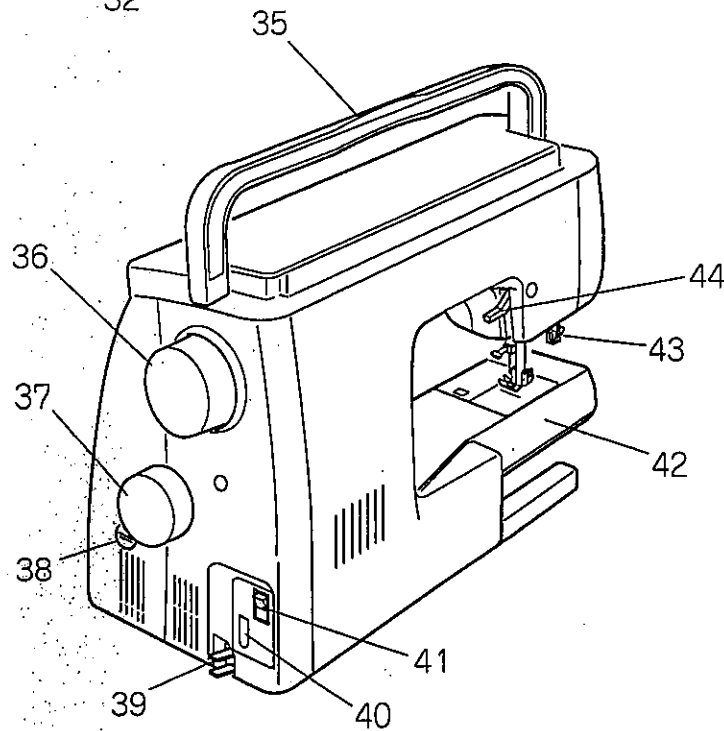
◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(41 ページ) により点検・調整を行ってください。

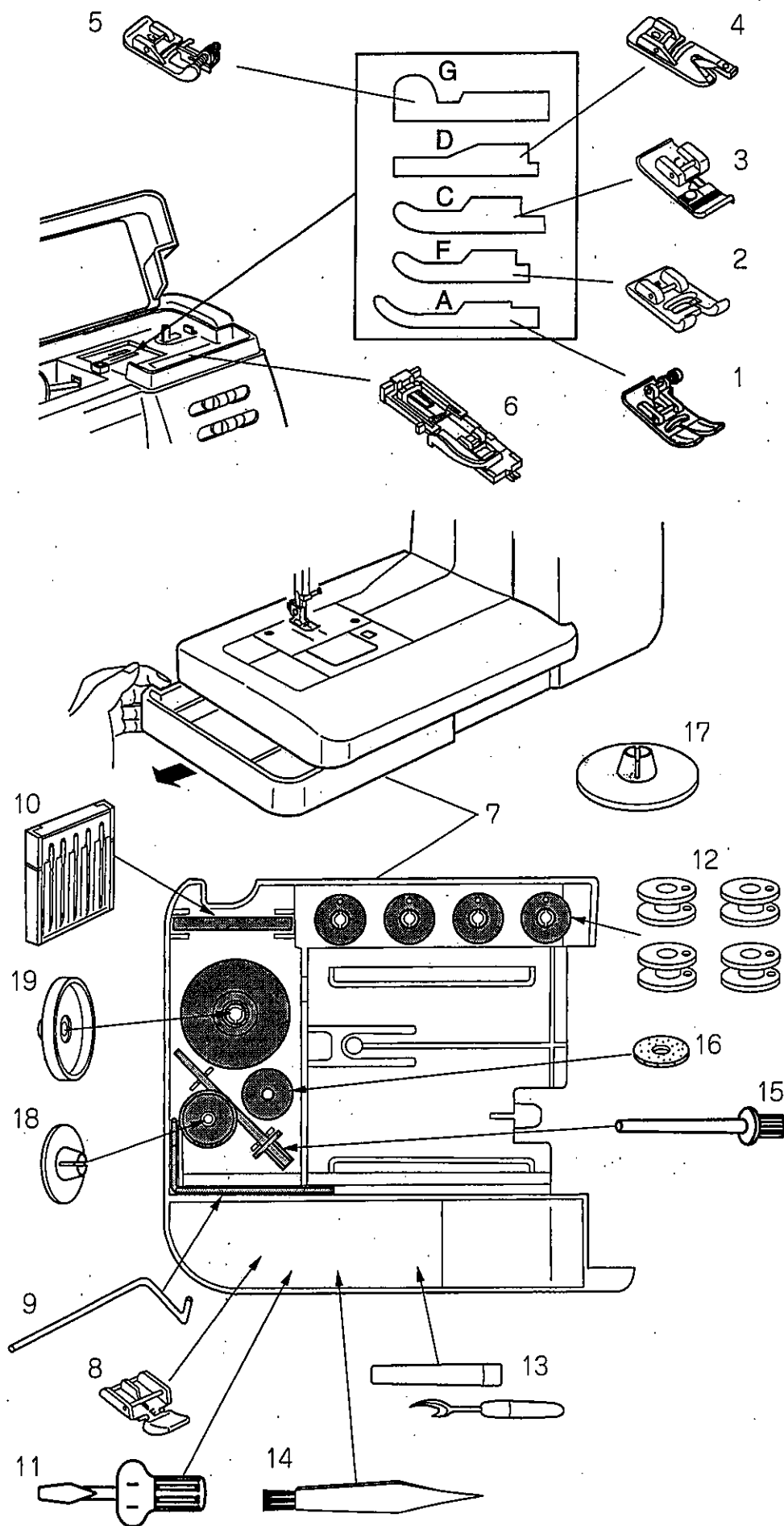
●各部の名まえ



- 1 模様表示窓
- 2 送りスライドつまみ
- 3 振幅スライドつまみ
- 4 ボビン押さえ
- 5 糸巻き軸
- 6 押さえポケット
- 7 補助糸立て棒取り付け穴
- 8 糸立て棒
- 9 糸こま押さえ
- 10 早見板
- 11 天板
- 12 糸調子ダイヤル
- 13 糸巻き糸案内
- 14 糸案内 (A)
- 15 糸案内 (B)
- 16 押さえ圧調節ダイヤル
- 17 天びん
- 18 面板
- 19 糸切り
- 20 糸通し
- 21 針板
- 22 補助テーブル
- 23 小物ケース
- 24 角板
- 25 角板開放ボタン
- 26 スタート・ストップボタン
- 27 上下停針ボタン
- 28 返しぬいレバー
- 29 ドロップつまみ
- 30 ボタンホールバランス調節つまみ
- 31 押さえホルダー
- 32 押さえ
- 33 針止めねじ
- 34 針
- 35 手さげハンドル
- 36 はずみ車
- 37 模様選択ダイヤル
- 38 送り調節ねじ
- 39 電源プラグ
- 40 プラグ受け
- 41 電源スイッチ
- 42 フリーアーム
- 43 ボタンホール切替えレバー
- 44 押さえ上げ



●標準付属品と収納場所



- 1 A: 基本押さえ
 - 2 F: サテン押さえ
 - 3 C: 裁ち目かがり押さえ
 - 4 D: 三つ巻き押さえ
 - 5 G: くけぬい押さえ
 - 6 R: ボタンホール押さえ
- ※A:基本押さえは、ミシンに付いています。

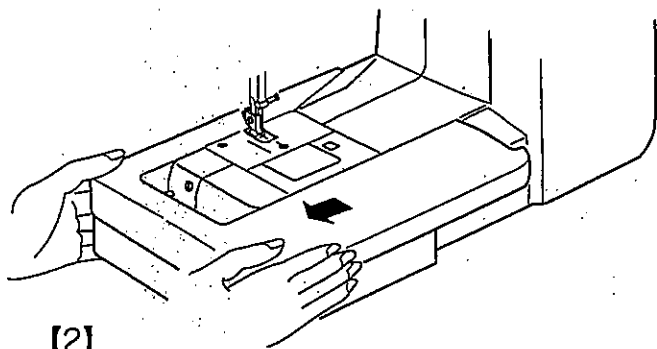
小物ケースに小物部品の収納ができます。
小物ケースは、ケースのうしろのくぼみに指をかけて、引き出します。

- 7 小物ケース
- 8 E: ファスナー押さえ
- 9 L: キルター
- 10 針
- 11 ねじまわし
- 12 ボビン
- 13 目ぼどき
- 14 ミシンブラシ
- 15 補助糸立て棒
- 16 フェルト
- 17 糸こま押さえ (大)
- 18 糸こま押さえ (小)
- 19 糸こま受け台

※糸こま押さえ (大) は、ミシンの糸立て棒に付いています。

●補助テーブルの使い方

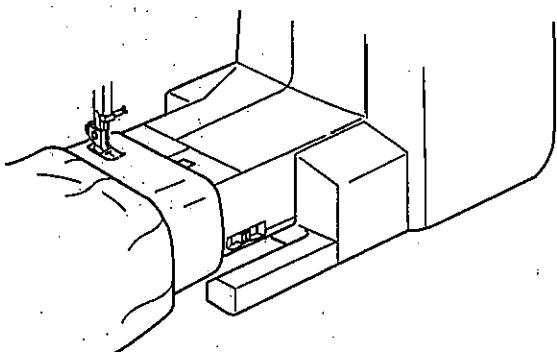
【1】



【1】 補助テーブルの外し方

補助テーブルの両脇を持って、横に引いて外します。

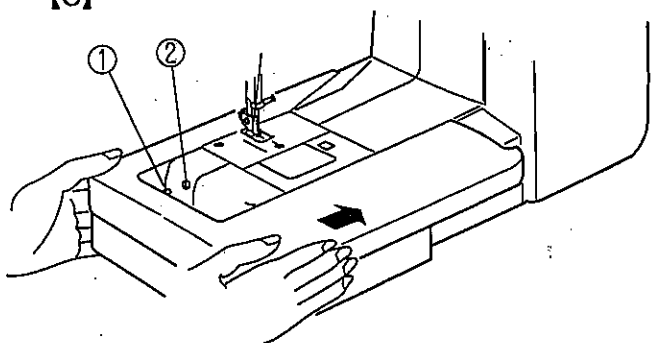
【2】



【2】 フリーアームの使い方

そで口や、すそなどのぬい、および、袋物の口端の始末に利用します。

【3】



【3】 補助テーブルの付け方

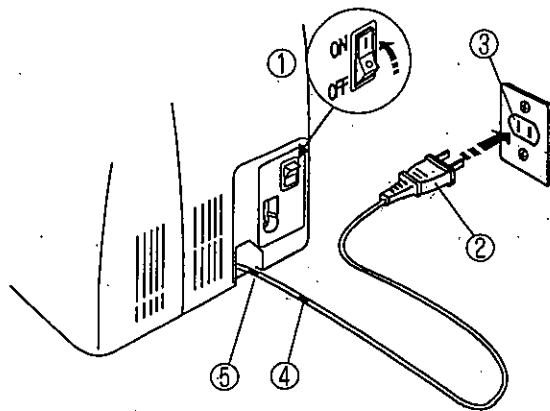
フリーアームにそわせ、止まるまで押し込みます。

①ピン

②穴

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方

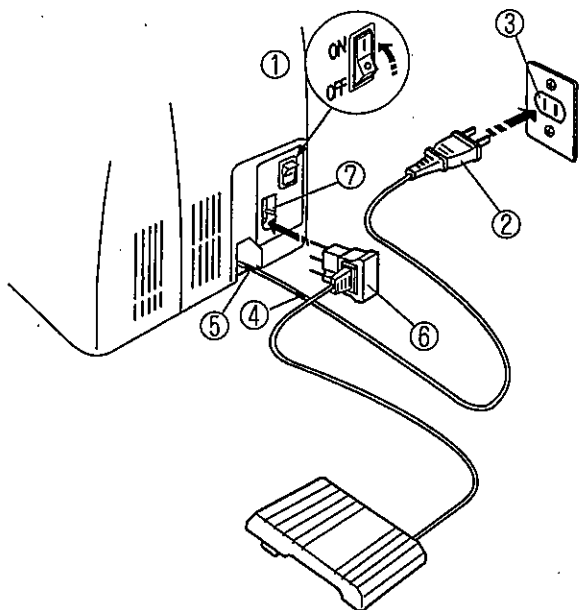


★スタート・ストップボタンを使用するとき

- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- ② 電源プラグを、プラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

- ① 電源スイッチ
② 電源プラグ
③ コンセント
④ 黄印
⑤ 赤印

※電源コードは、黄印が出てきたらゆっくり引いてください。また、赤印以上は引き出さないでください。



★フットコントローラー(別売)を使用するとき

- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- ② プラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源のプラグを、コンセントに差し込みます。
- ④ 電源プラグを「ON」(入) にします。

- ⑤ プラグ
⑥ プラグ受け

※フットコントローラーを使用する場合は、スタート・ストップボタンは、作動しません。

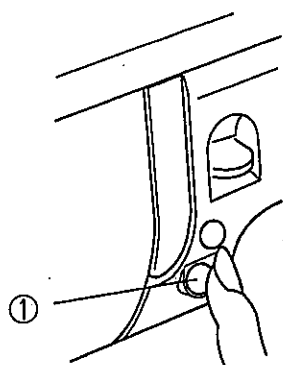
※電源コードは、黄印が出てきたらゆっくり引いてください。また、赤印以上は引き出さないでください。

⚠警告

- ・電源は一般家庭用 100V でご使用ください。
- ・ミシンを使わないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

感電・火災の原因になります。

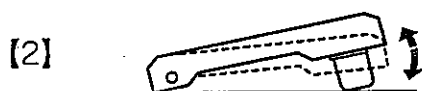
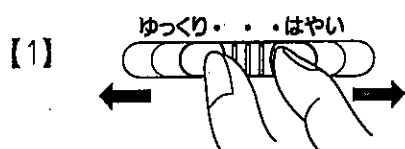
●スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。

①スタート・ストップボタン

●速さの調節の仕方



【1】スピードコントロールつまみ

スピードコントロールつまみを左右に動かして、最高速度の範囲を調節します。

【2】フットコントローラー（別売）

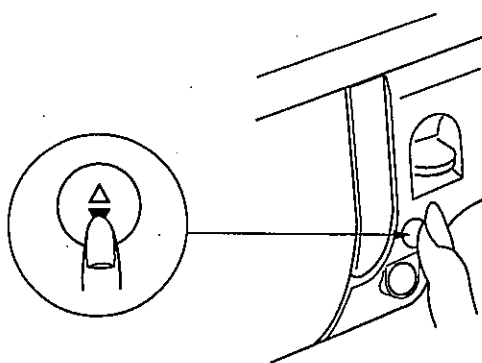
フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節できます。

フットコントローラーをはなすと、通常は針が上の位置で止まります。

深く 踏む → 速くなる。

浅く 踏む → 遅くなる。

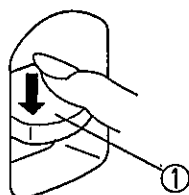
●上下停針ボタン



ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置を、上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえます。

※上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。（電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。）

●返しぬいレバー



【運転中の返しぬい】

ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだはゆっくり返しぬいをし、手をはなすと、前進ぬいにもどります。

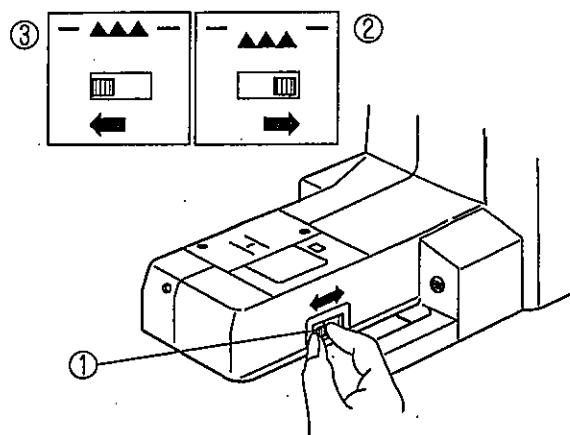
【停止中の返しぬい】

停止中に返しぬいレバーを押すと、押しているあいだはゆっくり返しぬいをし、手をはなすと止まります。

①返しぬいレバー

※不用意に返しぬいレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

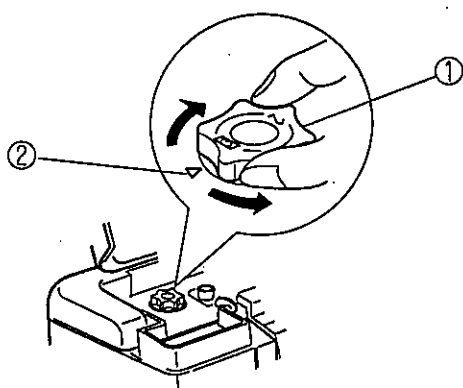
●ドロップつまみ



ボタン付けなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを動かします。

- ①ドロップつまみ
- ②送り歯をさげた位置
- ③送り歯をあげた位置

●押さえ圧調節ダイヤル



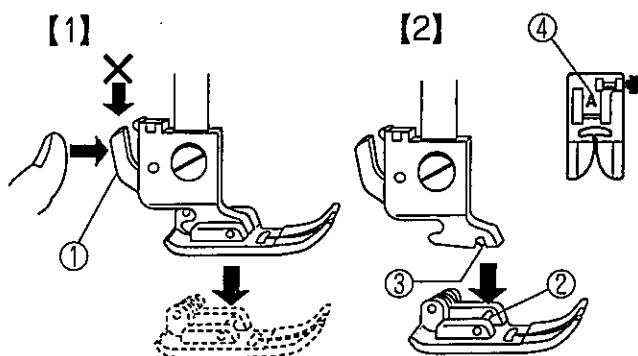
ダイヤルをまわし、目盛りを指示マークに合わせます。

※普通ぬいときには「3」に合わせます。

うす手の化繊地や伸縮性のある布地をぬうとき、およびアップリケなどぬいしろ部分が重なり合うものをカーブしてぬうときなど、ぬいずれしやすい場合は「2」または「1」に合わせます。

- ①押さえ圧調節ダイヤル
- ②指示マーク

●押さえの取りかえ方



△注意
押さえ・押さえホルダーの交換は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。 けがの原因になります。

【1】外し方

押さえをあげて、押さえホルダーのレバーを押して、押さえを外します。

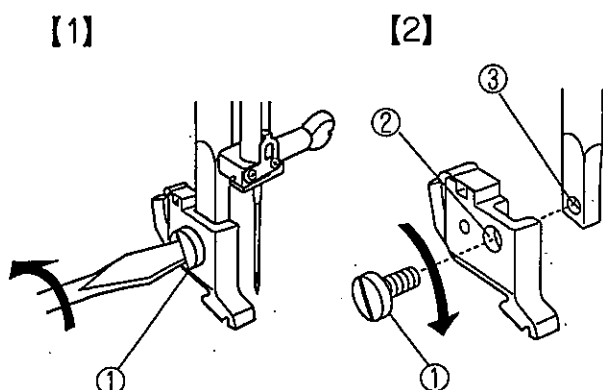
【2】付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

※押さえには、記号が付いていますので模様にあったものを使用してください。

- ①レバー②押さえのピン③押さえホルダーのみぞ
- ④押さえ記号

●押さえホルダーの取りかえ方



【1】外し方

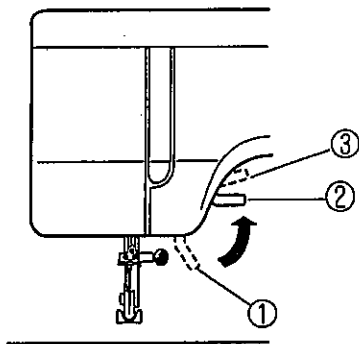
押さえをあげ、止めねじを左にまわして外します。

【2】付け方

押さえホルダーの穴と、押さえ棒のねじ穴を合わせ、止めねじを差し込み、右にまわしてしっかり付けます。

- ①止めねじ
- ②押さえホルダーの穴
- ③押さえ棒のねじ穴

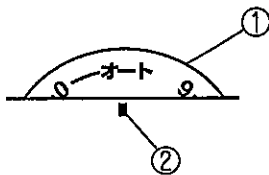
●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげ下げをします。

- ①さげた位置 ぬいときには、さげておきます。
- ②普通にあげた位置 布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。
- ③さらにあげた位置 補助リフトで、厚い布等が入れやすくなります。

●糸調子の合わせ方

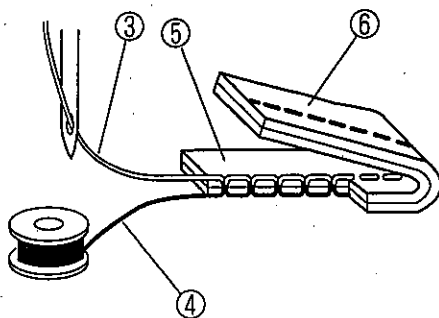


このミシンは、指示線に糸調子ダイヤルの「オート」を合わせると、普通ぬいのにときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

特殊なぬい方をする模様や、素材・ぬい方などによって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわしてマニュアル調節をします。

- ①糸調子ダイヤル
- ②指示線

【1】



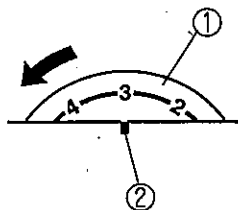
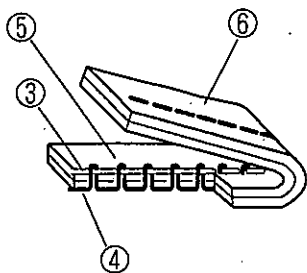
【1】 バランスのとれた糸調子

○直線ぬいのはきは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

○シグザクぬいのはきは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

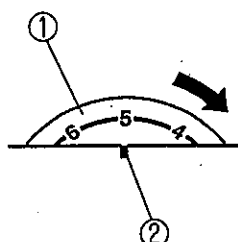
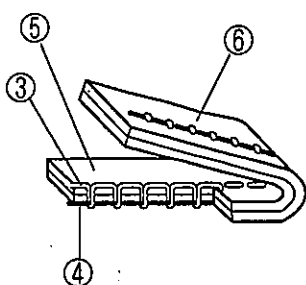
【2】



【2】 上糸が強すぎるとき

*下糸が布の表に出ます。・・・糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【3】

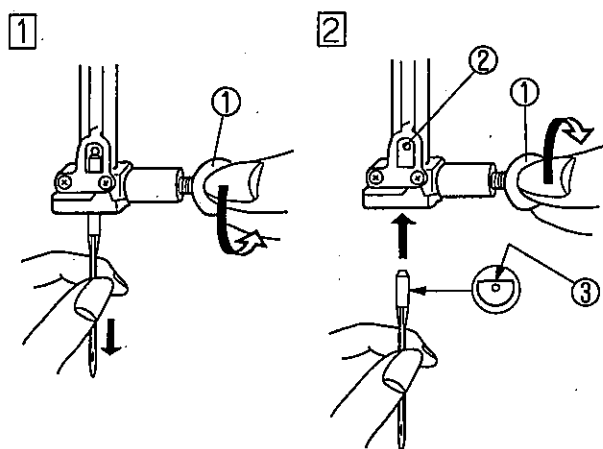


【3】 上糸が弱すぎるとき

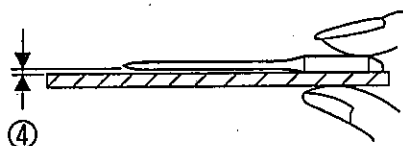
*上糸が布の裏に出ます。・・・糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

- ①糸調子ダイヤル
- ②指示線
- ③上糸
- ④下糸
- ⑤布の表
- ⑥布の裏

●針の取りかえ方



【1】



△注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
けがの原因になります。

- ① 針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

①針止めねじ

- ② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

②ピン

③針の平らな面

【1】 針のしらべ方

針の平らな面を平らなもの（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均一に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

④すきま

●布に適した糸や針を選ぶ目安

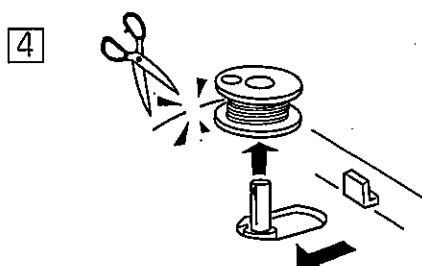
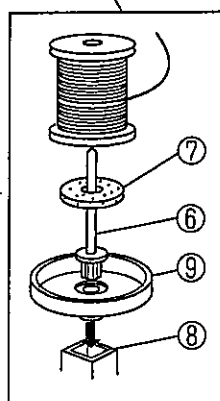
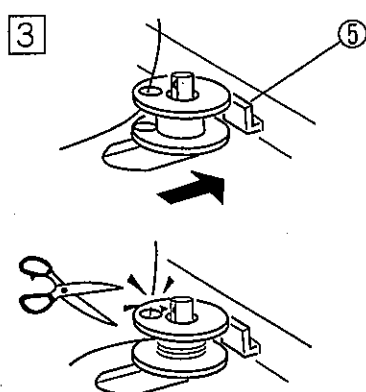
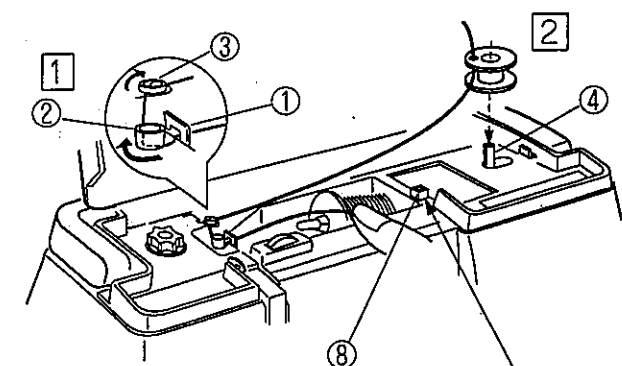
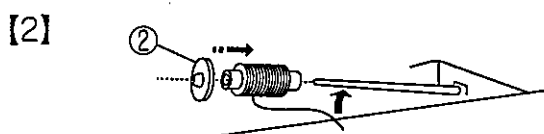
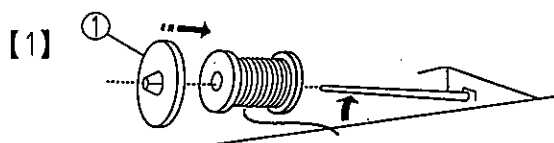
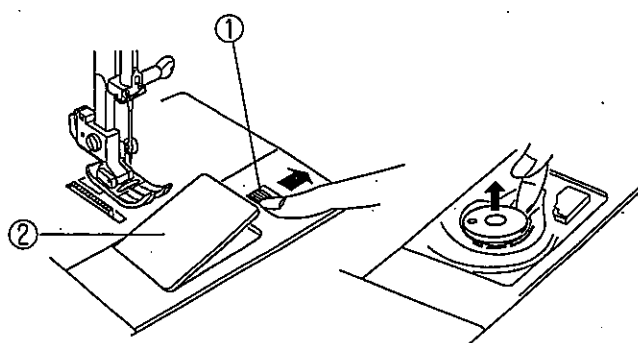
布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹 糸 80番～100番	9番～11番
		綿 糸 80番～100番	
		化繊糸 80番～100番	
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹 糸 50番	11番～14番
		綿 糸 60番～80番	
		化繊糸 50番～80番	
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	綿 糸 50番	14番
		絹 糸 50番	14番～16番
		綿 糸 40番～50番	
		化繊糸 40番～50番	
		絹 糸 30番	16番
		綿 糸 30番	

*一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

*原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

*伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、フルー針を使用すると効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

●下糸の準備をしましょう



★ボビンを取り出します

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

①角板開放ボタン ②角板

★糸こまを取り付けます

糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

【1】普通の糸こまのとき

①糸こま押さえ (大)

【2】小さい糸こまのとき

②糸こま押さえ (小)

※ 小さい糸こまのときには、必ず、糸こま押さえ (小) を使ってください。

★ボビンに糸を巻きます

① 糸案内 (A)、(B)、糸巻き糸案内に順に糸をかけます。

② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

①糸案内(A) ②糸案内(B) ③糸巻き糸案内 ④糸巻き軸

③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、巻き始めます。

糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

⑤ボビン押さえ

④ 再びミシンを動かし巻き終わったらミシンを止めます。ボビンをもとにもどし、糸巻き軸より外して糸を切ります。

※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。

【補助糸立て棒を使うとき】

補助糸立て棒を糸こま受け台に入れ、取り付け穴に差し込み、フェルトと糸こまをセットします。

糸こまの糸端は、糸こまの右側からうしろに出るようにします。

⑥補助糸立て棒

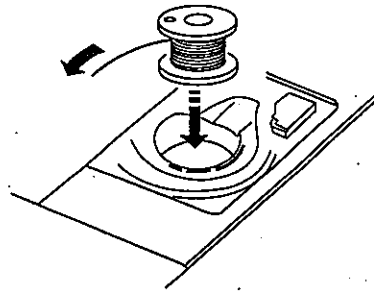
⑦フェルト

⑧補助糸立て棒取り付け穴

⑨糸こま受け台

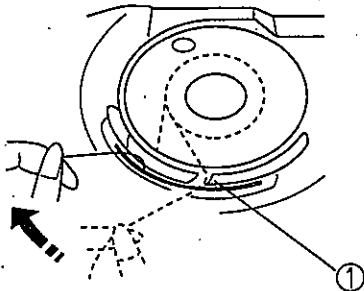
★ボビンを内がまにセットします

1



- 1 糸の端を矢印方向に出して、ボビンを内がまに入れます。

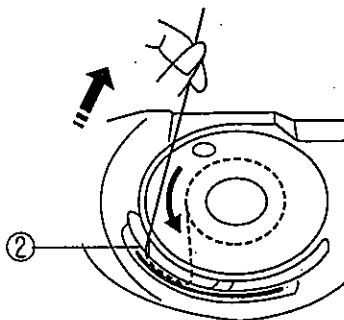
2



- 2 糸の端を引きながら手前のみぞ（A）にかけ、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねのあいだを通します。

①手前のみぞ（A）

3

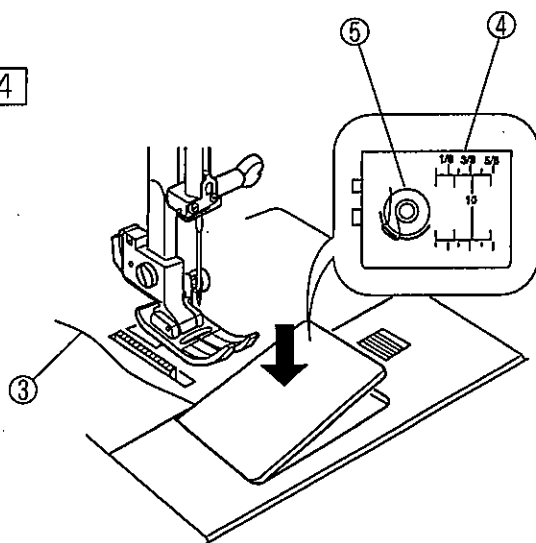


- 3 糸を左側のみぞ（B）にかけるようにして向こう側に出します。

※糸を左側のみぞにかけるように向こう側に出します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

②左側のみぞ（B）

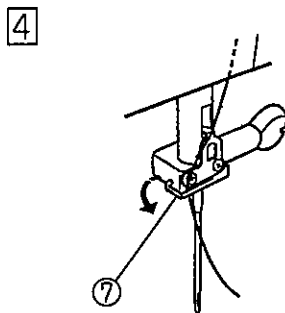
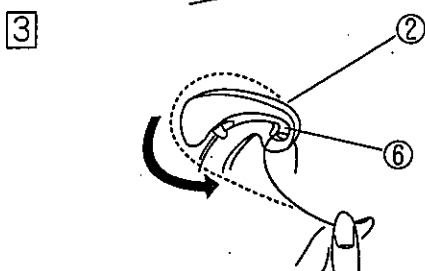
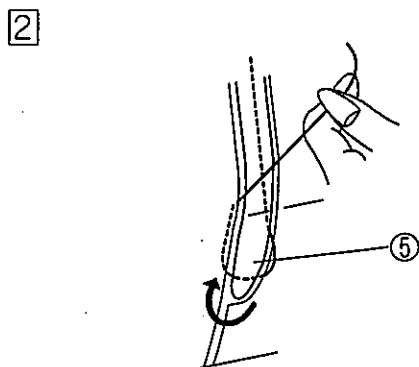
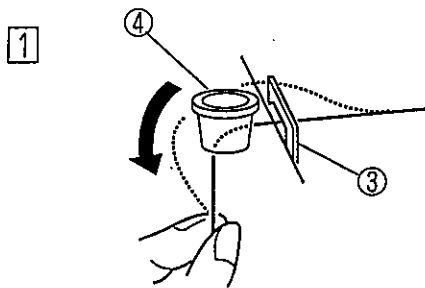
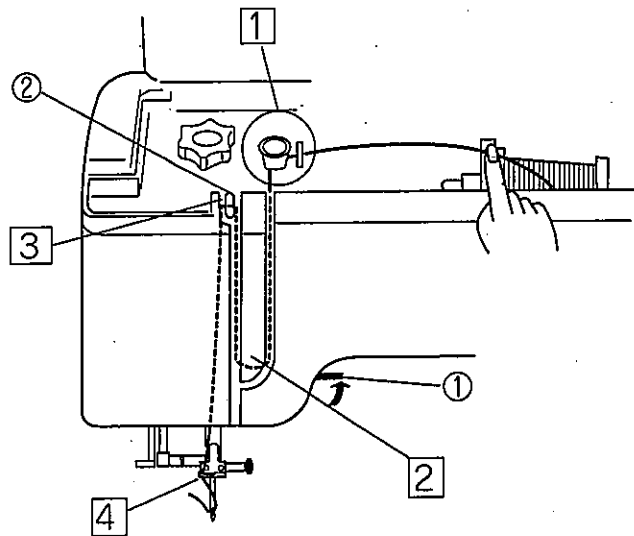
4



- 4 下糸を10 cmくらい引き出して、角板を付けます。

③下糸
④角板
⑤糸道案内図

●上糸の準備をしましょう



★上糸をかけます

※押さえをあげます。

※はずみ車を手前にまわし、天びんを上にあげます。

- ①押さえ上げ
- ②天びん

- 1 糸こまから糸を引き出し、右手で糸こまを押さえ、左手で糸を持ち、糸案内 (A) につけ、糸案内 (B) の下に巻き付けるようにかけ、糸案内板の右側にそって下におろします。

- ③糸案内(A)
- ④糸案内(B)

- 2 糸案内板の下をまわして、右から左につけ、上に引きあげます。

- ⑤糸案内板

- 3 天びんへは、右からうしろをまわして左へ出し、スリットから穴先まで引き入れて、まっすぐ下におろします。

- ⑥穴

- 4 針棒糸掛けに左からかけます。

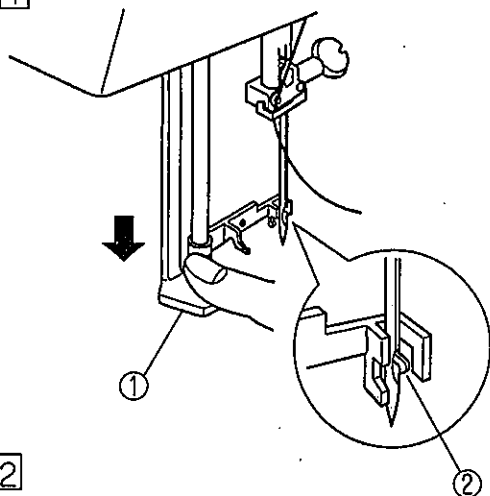
- ⑦針棒糸掛け

※針には糸通しを使って糸を通します。

(糸通しの使い方は、14ページをごらんください。)

●糸通しの使い方

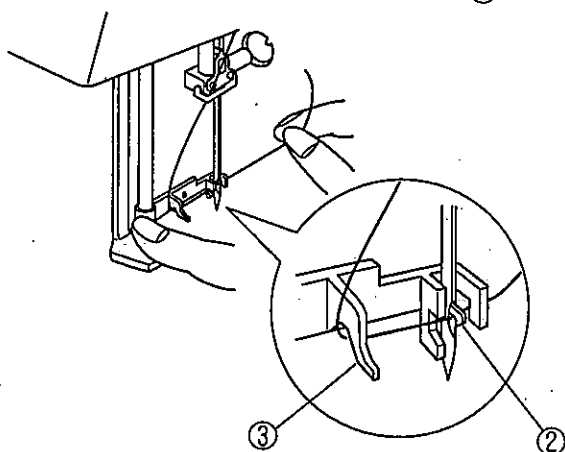
①



- ① 押さえをさげ、針を上にあげた状態で、糸通しつまみを止まるまでさげます。
フックが針穴に入ります。

①糸通しつまみ
②フック

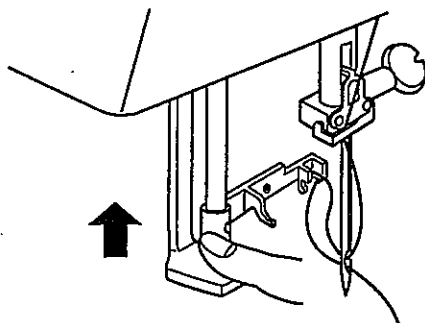
②



- ② 糸を左側からガイドとフックにかけます。

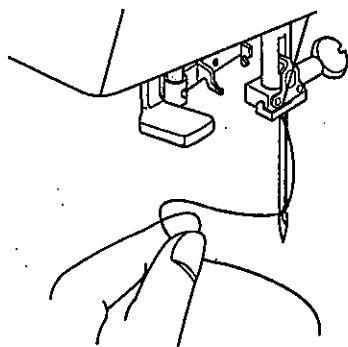
③ガイド

③



- ③ 糸の端を軽く持ち、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

④

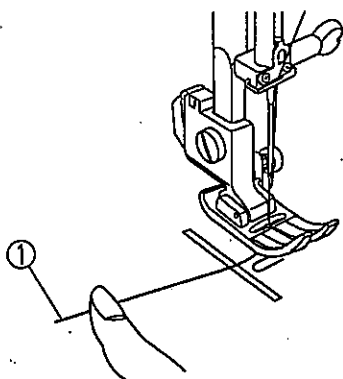


- ④ 糸の輪を糸通しから外し、針穴から端を引き出します。

※ 糸は50～100番が使えます。
針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。

●下糸を引き上げるには

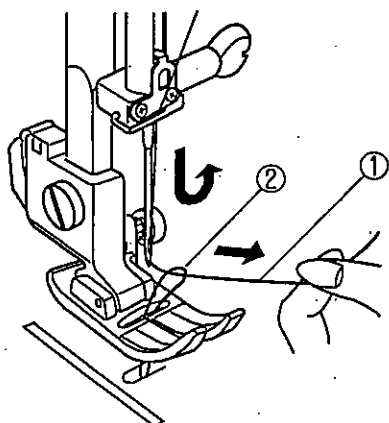
①



① 押さえをあげ、上糸を指で押さえておきます。

①上糸

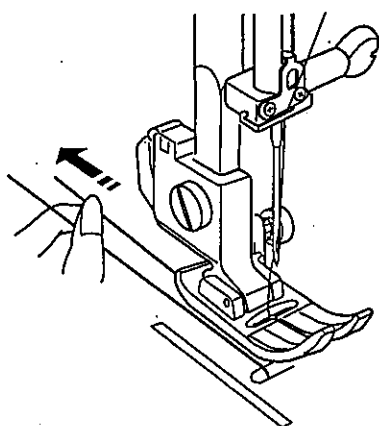
②



② はずみ車を手前に1回転させ、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

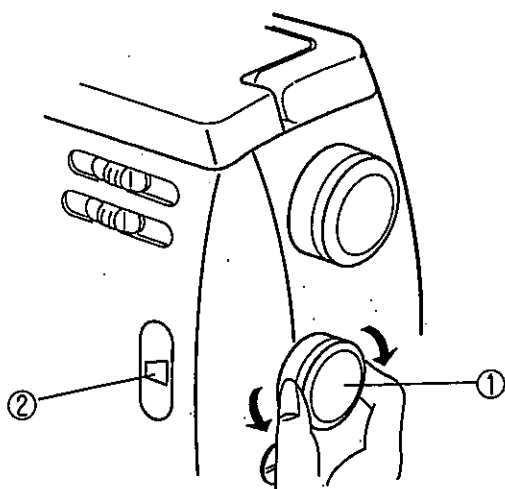
②下糸

③



③ 上糸・下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて約
10cmほど引き出します。

●模様選択ダイヤル

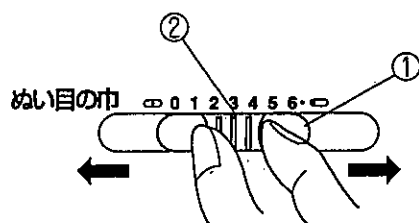


模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を模様表示窓に表示させます。

※模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

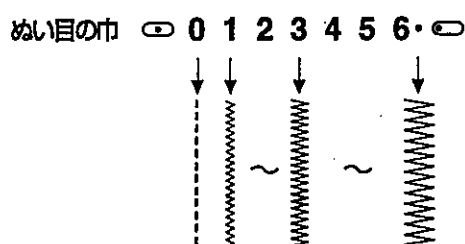
- ①模様選択ダイヤル
- ②模様表示窓

●振巾スライドつまみ（ぬい目の巾調節）

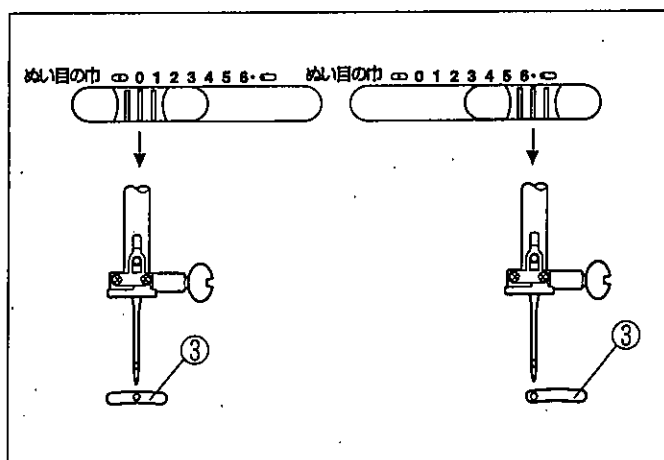


振巾スライドつまみの指示線を目盛りに合わせます。
目盛が大きくなると、ぬい目の巾は大きくなります。

※振巾スライドつまみを動かすときは、針を布からあげてください。



- ①振巾スライドつまみ
- ②指示線

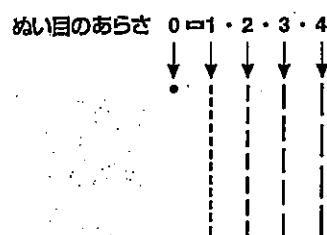
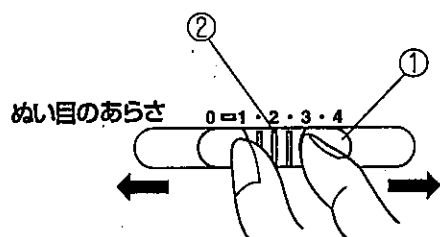


【直線ぬいの針落ち】

模様2、17、18（直線模様グループ）は、振巾スライドつまみにより、針落ちを、中（）と左（）のあいだでかえることができます。

- ③針板の穴

●送リスライドつまみ（ぬい目あらし調節）



送リスライドつまみの指示線を目盛りに合わせます。
目盛が大きくなると、ぬい目はあらかくなります。

※  は、ボタンホールのぬい目あらしの調節範囲を示します。

※送リスライドつまみを動かすときは、押さえをあげてください。

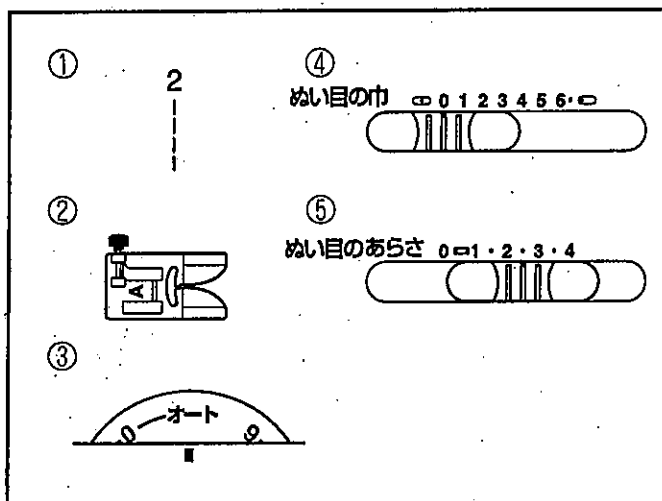
※模様 10～19 は、ぬい目あらしは固定されていますので、送リスライドつまみの操作は必要はありません。
模様の形が整わないときには、38 ページの調節方法をごらんください。

①送リスライドつまみ

②指示線

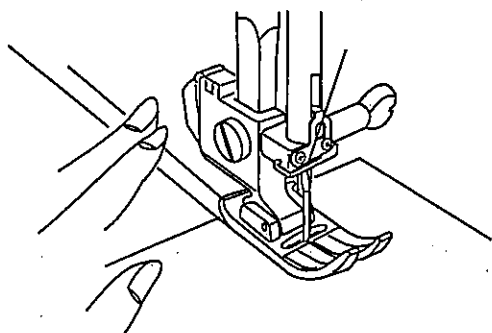
実用ぬいいろいろ

●直線ぬい



ミシンのセット

- ①模様 2
- ②押さえ A基本押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 0 () または 6.5 ()
- ⑤ぬい目のあかさ 1.5~4



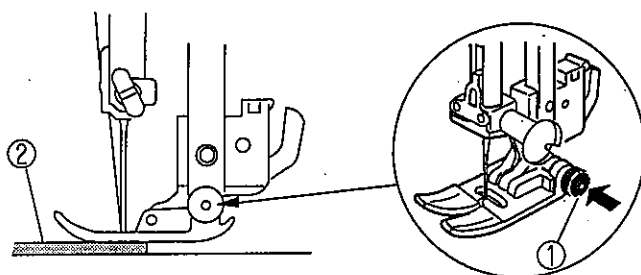
★ぬい始め

押さえの下からうしろに引き出した上糸と下糸、および布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

押さえをさげて、ゆっくりぬい始めます。

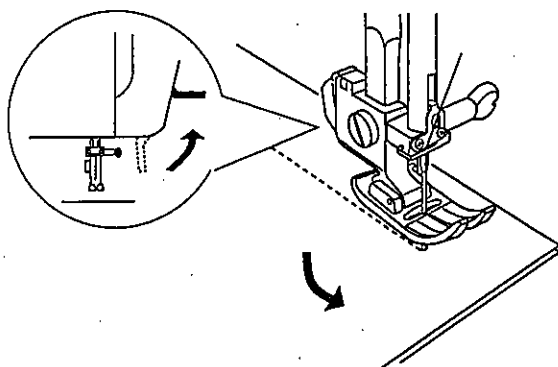
※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

★厚手の布端のぬい始め



- ①ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押しこみます。
- ②ボタンを押したままで押さえをさげます。
- ③ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

- ①黒ボタン
- ②布



★ぬい方向の変更

ミシンを止め、針を布にさし、押さえをあげます。

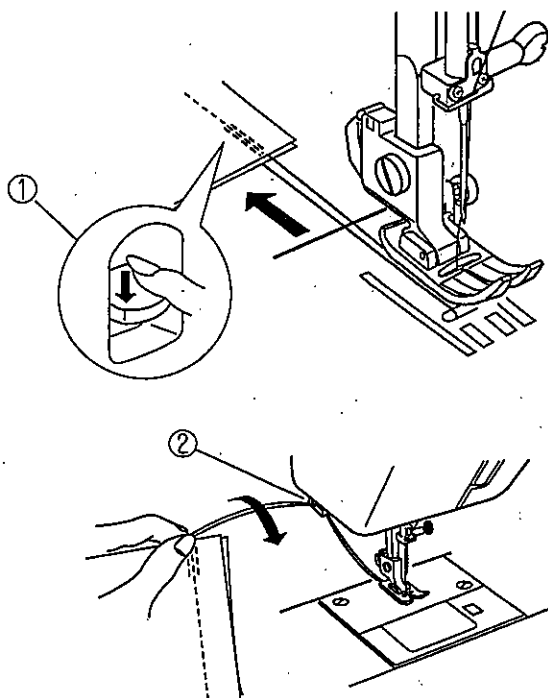
針を布にさしたままぬい方向をかえます。

押さえをさげ、ミシンをスタートします。

★ぬい終わりと糸の切り方

返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。
押さえをあげて、布を向こう側に静かに引き出し、糸切りで糸を切ります。

- ①返しぬいレバー
- ②糸切り



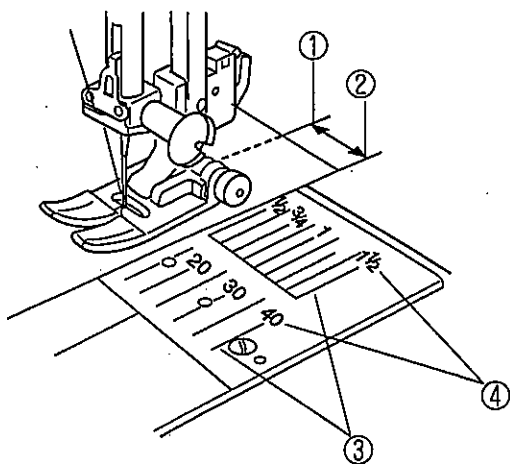
★針板ガイドラインの利用

布端を角板、および針板の左右にあるガイドラインに合わせてぬいます。

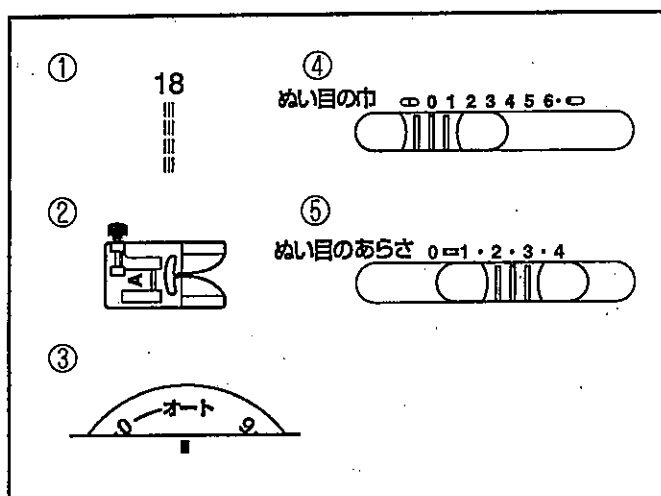
※ガイドラインの数字は、針穴中央からガイドラインまでの距離を「ミリメートル」または「インチ」で示しています。

数 字	10	20	30	40	1/2	3/4	1	1 1/2
距離(cm)	1.0	2.0	3.0	4.0	1.3	1.9	2.5	3.8

- ①針穴中央
- ②布端
- ③ガイドライン
- ④数字

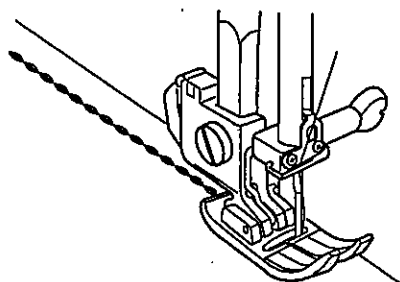


●三重ぬい



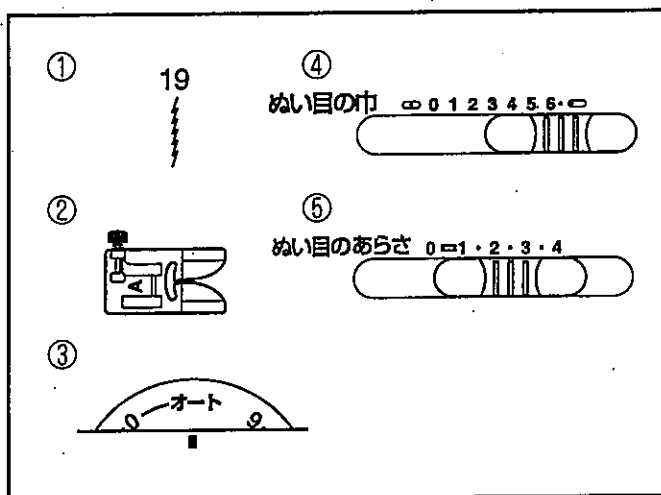
ミシンのセット

- ①模様..... 18
- ②押さえ A 基本押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 0 () または6.5 ()
- ⑤ぬい目のあかさ 合わせる必要はありません。



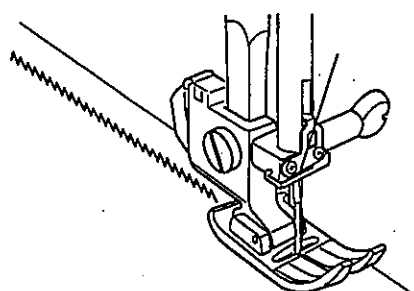
丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬいなどに利用します。
布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

●伸縮ぬい



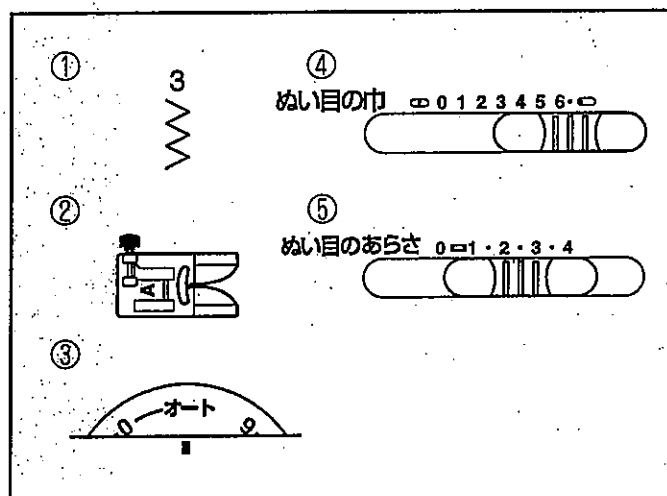
ミシンのセット

- ①模様..... 19
- ②押さえ A 基本押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 5~6.5
- ⑤ぬい目のあかさ 合わせる必要はありません。



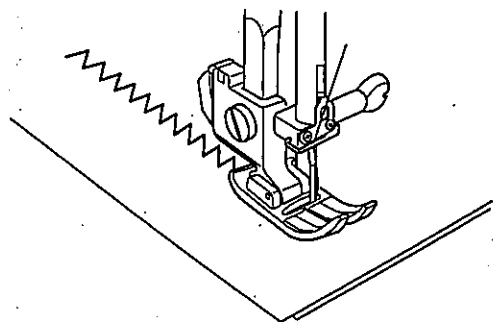
布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。
また、直線状なので、ぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

●ジグザグぬい



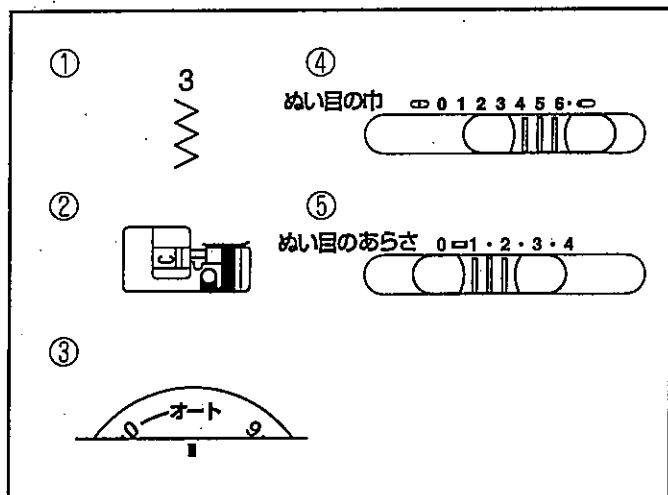
ミシンのセット

- ①模様..... 3
- ②押さえ..... A 基本押さえ
- ③糸調子..... オート
- ④ぬい目の巾..... 1~6.5
- ⑤ぬい目のあかさ..... 0.5~3



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

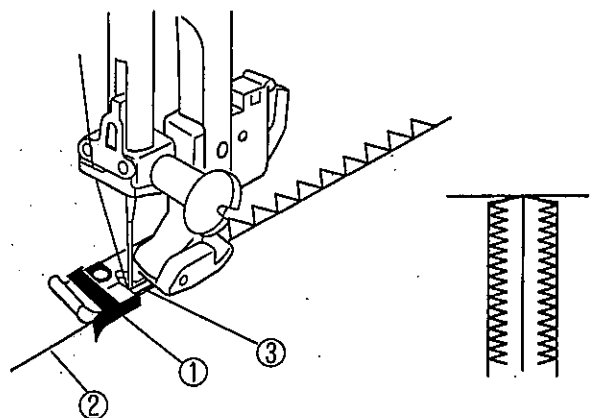
●ジグザグぬい裁ち目かがり



ミシンのセット

- ①模様..... 3
- ②押さえ..... C 裁ち目かがり押さえ
- ③糸調子..... オート
- ④ぬい目の巾..... 5~6.5
- ⑤ぬい目のあかさ..... 1~2

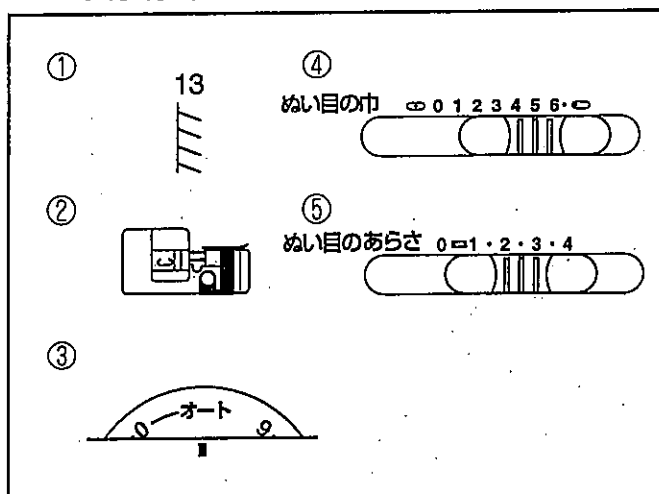
※ぬい目の巾を5~6.5のあいだで使用します。
押さえの針金にあたらないことを確認してください。



布端のほつれ止めとして広く利用します。
布端を裁ち目かがり押さえのガイドに当ててぬいます。

- ①ガイド
- ②布端
- ③針金

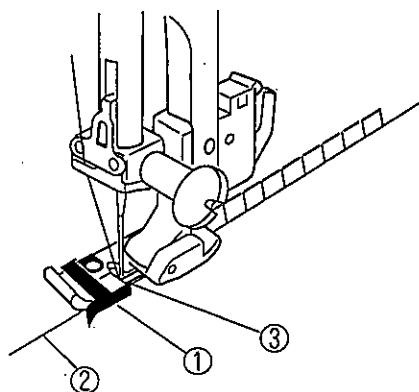
●かがりぬい



ミシンのセット

- ①模様..... 13
- ②押さえ..... C 裁ち目かがり押さえ
- ③糸調子..... オート
- ④ぬい目の巾..... 5
- ⑤ぬい目のあかさ..... 合わせる必要はありません。

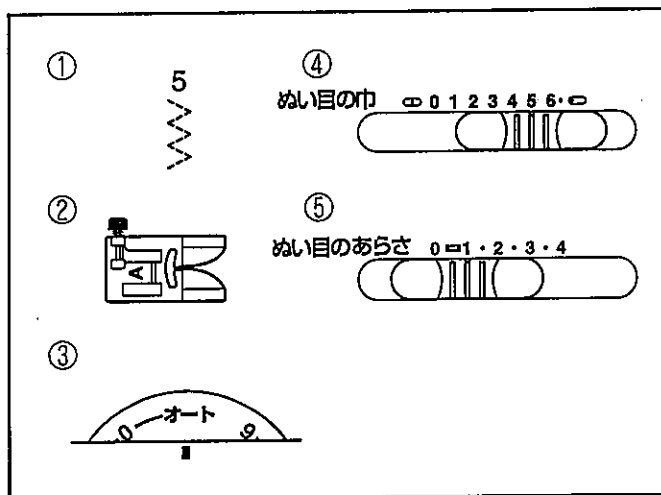
※ぬい目の巾を5～6.5のあいだで使用します。
押さえの針金にあたらないことを確認してください。



地ぬいをかねたかがりぬいに利用します。
また、布端のほつれ止めとしても使えます。
布端を裁ち目かがり押さえのガイドに当ててぬい
ます。

- ①ガイド
- ②布端
- ③針金

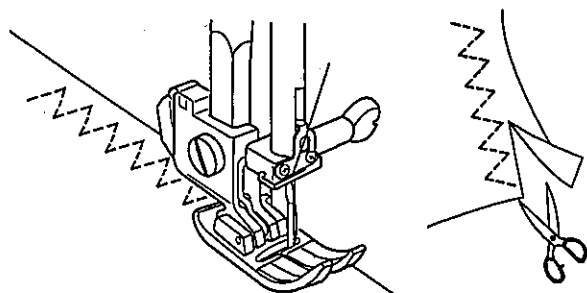
●トリコットぬい裁ち目かがり



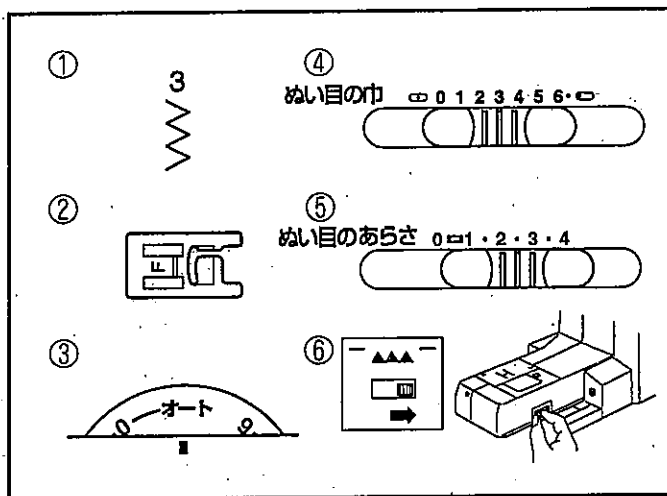
ミシンのセット

- ①模様..... 5
- ②押さえ..... A 基本押さえ
- ③糸調子..... オート
- ④ぬい目の巾..... 3～6.5
- ⑤ぬい目のあかさ..... 0.5～1.5

ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の
反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい
目の近くで切り落とします。

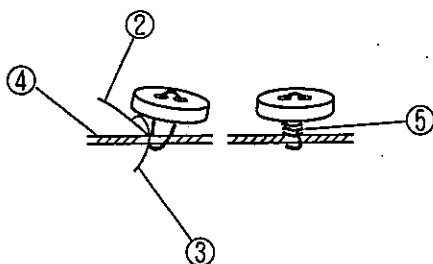
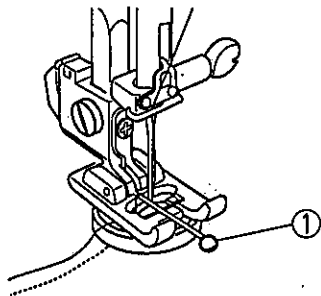
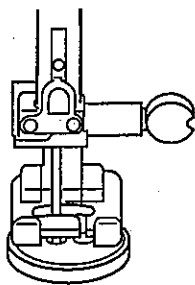


●ボタン付け



ミシンのセット

- ①模様..... 3
- ②押さえ..... F サテン押さえ
- ③糸調子..... オート
- ④ぬい目の巾..... ボタン穴の巾に合わせる
- ⑤ぬい目のあかさ..... 合わせる必要はありません。
- ⑥ドロップつまみ..... さげた位置

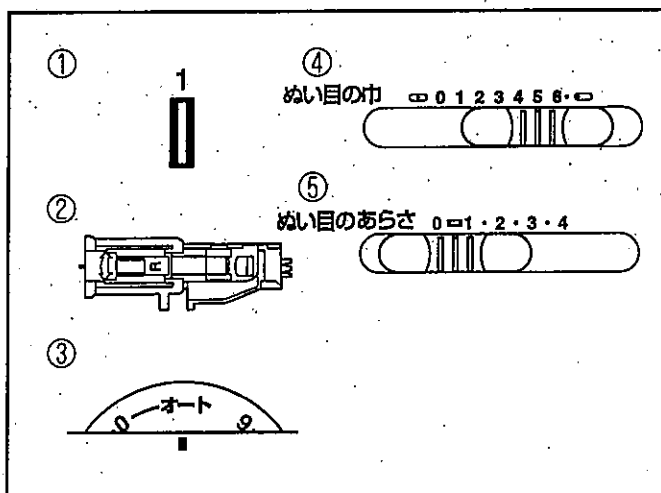


- 1 針に糸を通さない状態で押さえの下にボタンを置き、手ではずみ車を手前にまわして、ぬい目の巾がボタン穴の間かくと同じになるように、振巾スライドつまみで調節しておきます。
 - 2 針に糸を通し、布とボタンを押さえの下にセットします。
 - 3 押さえの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針がボタンの左右の穴におりることを確かめます。
 - 4 ミシンをスタートさせ、10針くらいぬったら止めます。
 - 5 まち針を抜いて、押さえをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。
- ※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。
- 6 上糸をボタンと布のあいだに引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布のあいだに引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻き付けて結びます。

※ ぬい終わったらドロップつまみをもとにもどし、送り歯をあげます。

- ①まち針
- ②上糸
- ③下糸
- ④布
- ⑤足

●ワンステップボタンホール



ミシンのセット

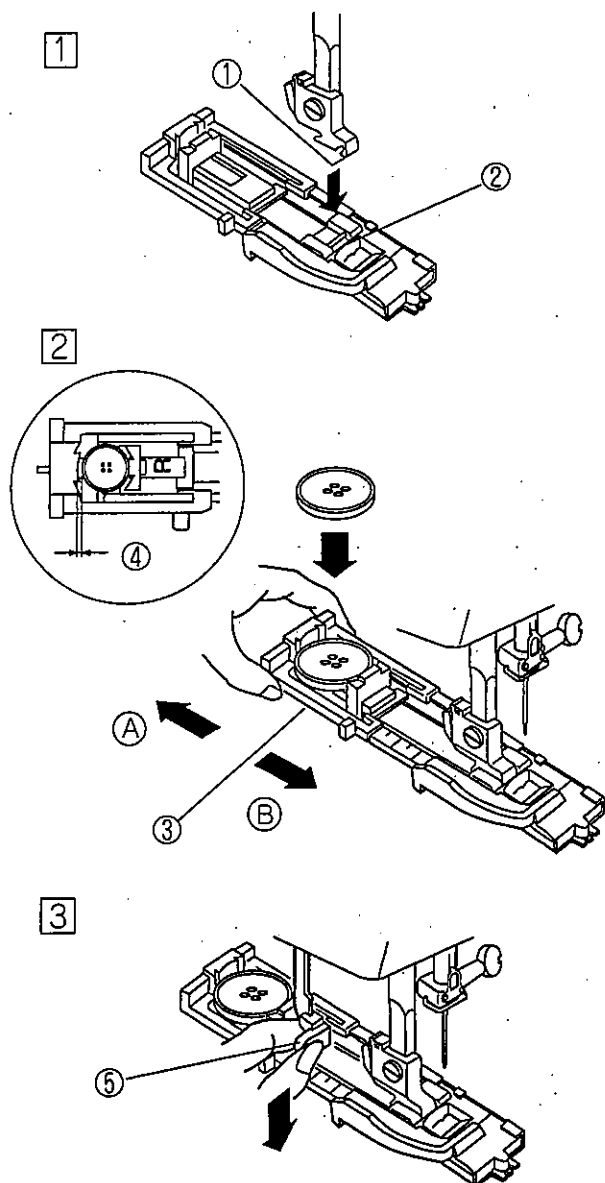
- ①模様 1
- ②押さえ R ボタンホール押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 4~6.5
- ⑤ぬい目のあかさ 0.5~1 ()

※ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。

※ボタンの直径が2.5cmまで、ボタンホールができます。

※必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。

※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。



- ① はずみ車を手前にまわして針をあげ、押さえをあげます。

押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえをさげて押さえを取り付けます。

- ①押さえホルダーのみぞ
- ②押さえのピン

- ② ボタン受け台を(A)方向に引き、ボタンをのせて(B)の方向にもどしてはさみます。

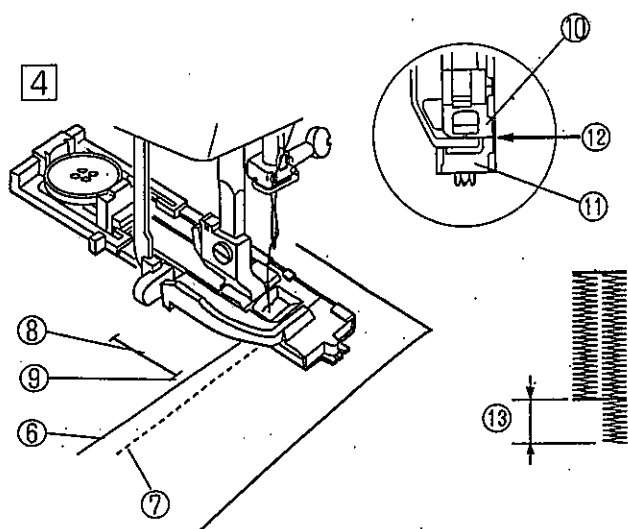
③ボタン受け台

※ 使用するボタンが極厚の場合は試しぬいをして確かめてください。すきまをあけて位置決めするとその分大きなボタンホールができます。

④すきま

- ③ ボタンホール切替えレバーを止まるまでいっぱい引き上げます。

⑤ボタンホール切替えレバー

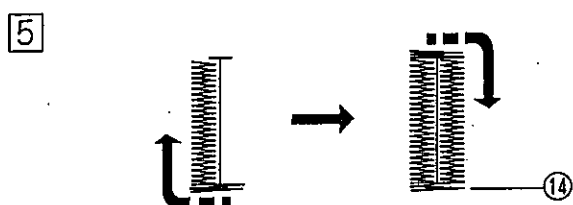


- ④ 押さえをあげて、上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬい始めの位置に針をさして、押さえをさげます。

⑥上糸 ⑦下糸
⑧ボタンホールのぬい位置 ⑨ぬい始めの位置

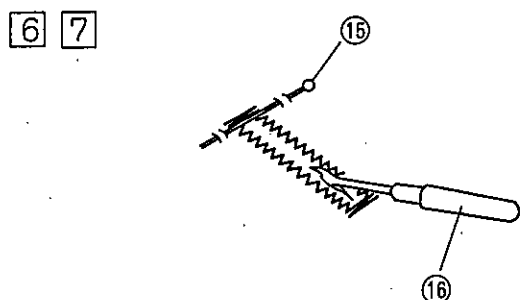
※ ぬい始めに、押さえスライダーとパネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。
すきまがあると左右のぬい位置がずれることがあります。

⑩押さえスライダー
⑪パネ保持
⑫すきまがないこと
⑬ぬい位置がずれる



- ⑤ ミシンをスタートさせると、自動的に左右のボタンホールをぬっていきます。
ボタンホールのぬい始めの位置までもどったら、ミシンを止めます。

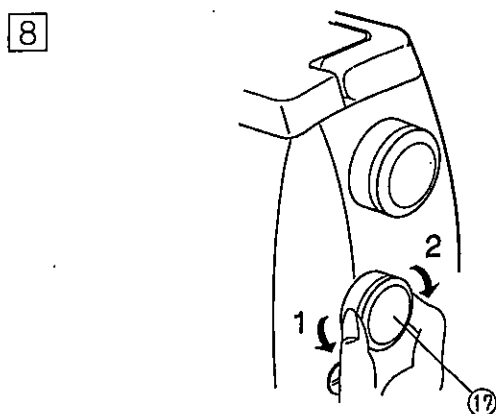
⑭ぬいはじめの位置



- ⑥ 押さえをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

- ⑦ かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかかった糸を切らないように切りひらきます。

⑮まち針
⑯目ほどき

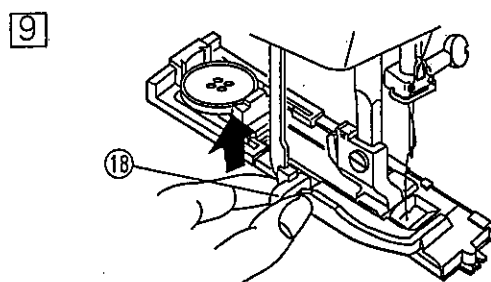


〈引き続きボタンホールぬいをする場合〉

- ⑧ 一度、模様選択ダイヤルを「1」または「2」方向にまわして他の模様を選んだあと、再びBH模様を選びます。

この操作により、引き続きボタンホールをぬうことができます。

⑰模様選択ダイヤル



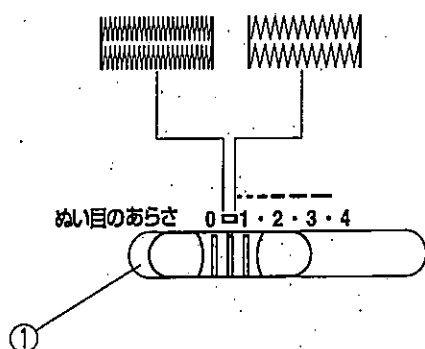
- ⑨ ボタンホールがぬい終わったら、ボタンホール切替えレバーを止まるまでいっぱい、押しあげてみてください。

⑱ボタンホール切替えレバー

【ぬい目あらしの調節】

ボタンホールのぬい目あらしは、送りスライドつまみで、
 の範囲で調整します。

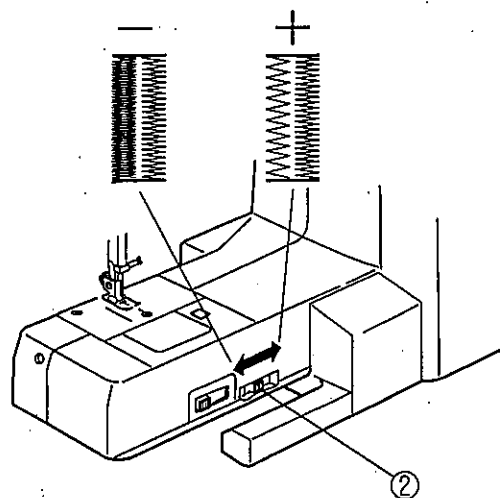
①送りスライドつまみ



【左右のぬい目あらしがそろっていないとき】

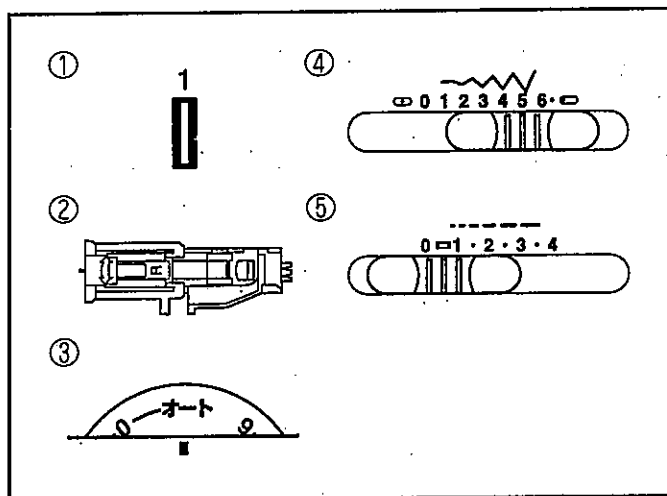
左側のぬい目あらしをバランス調節つまみで調整します。

- ① 右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目が細かいときには、
 十方向につまみを動かします。
 左側のぬい目があらかくなります。
- ② 右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目があらいときには、
 一方向につまみを動かします。
 左側のぬい目が細かくなります。



②バランス調節つまみ

●芯入りワンステップボタンホール

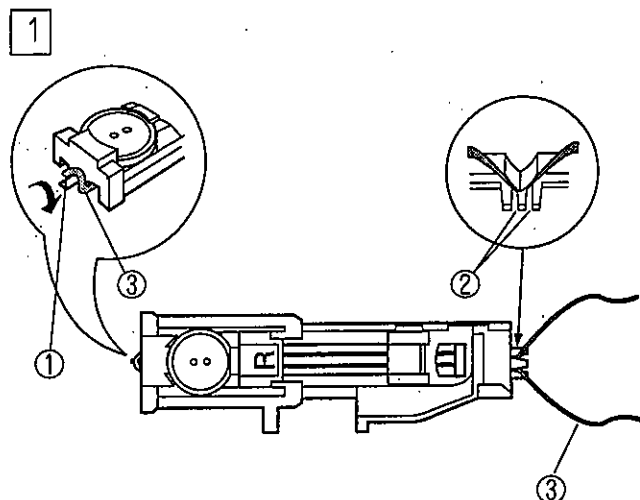


ミシンのセット

- ①模様 1
- ②押さえ R ボタンホール押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 4~6.5
- ⑤ぬい目のあらかさ 0.5~1 ()

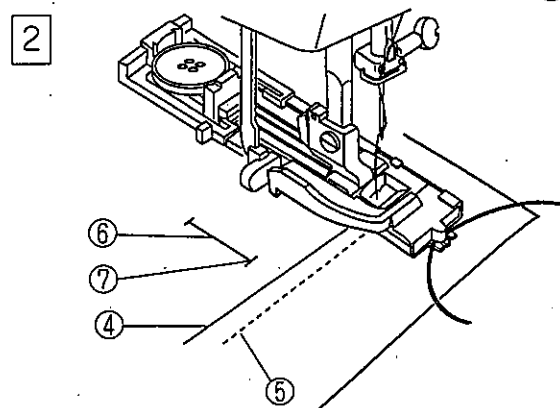
※ 芯糸を入れてぬうと丈夫なボタンホールができます。

※ 芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。



- ① 押さえのうしろ側のつのにかけた芯糸を、押さえの下を通して、前側のきり込みにはさみます。

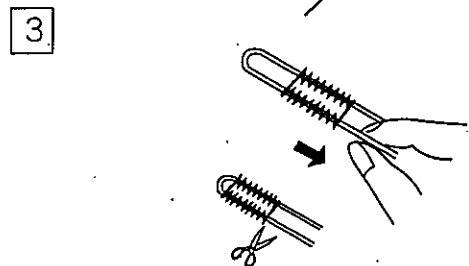
- ① つの
- ② きり込み
- ③ 芯糸



- ② ぬい始めの位置に針をさして押さえをさげ、ぬいます。

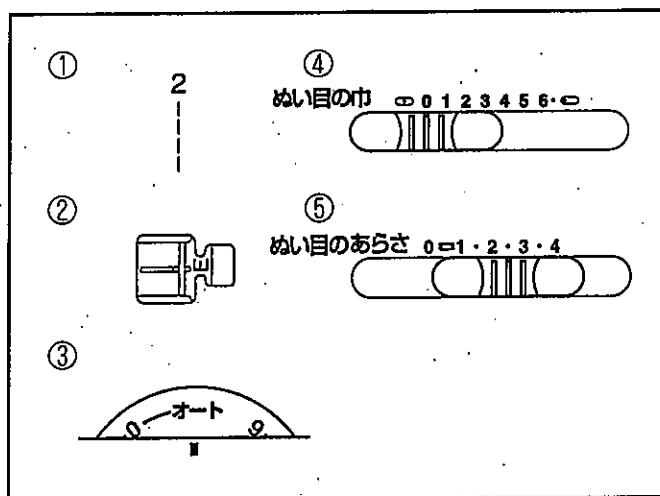
※ ぬい方はワンステップボタンホールのぬい手順と同じです。

- ④ 上糸
- ⑤ 下糸
- ⑥ ボタンホールのぬい位置
- ⑦ ぬい始めの位置



- ③ 芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●ファスナー付け



ミシンのセット

- ①模様..... 2
- ②押さえ..... E ファスナー押さえ
- ③糸調子..... オート
- ④ぬい目の巾..... 0 ()
- ⑤ぬい目のあかさ..... 1.5~4

例：左脇あきのぬい方

【ファスナー押さへの付け方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

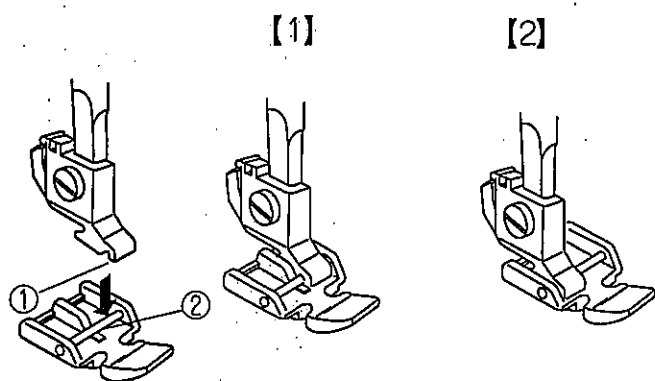
右側をぬうときは、左側にセットします。

①みぞ

②ピン

【1】 左側をぬうとき

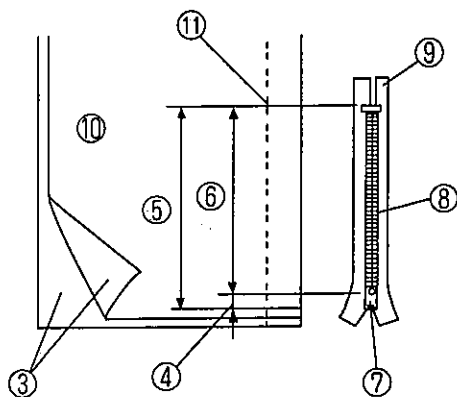
【2】 右側をぬうとき



【準備】

- ① ファスナーのあき寸法を確かめます。あき寸法はファスナー寸法に1cm プラスした寸法です。

①



③布表

④1 cm

⑤あき寸法

⑥ファスナー寸法

⑦スライダー

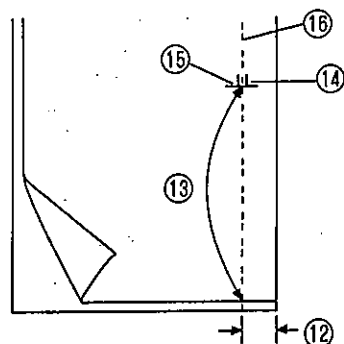
⑧むし

⑨台布

⑩布裏

⑪あき止まり

②



- ② 仮ぬいのしつけと地ぬいをします。

布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。

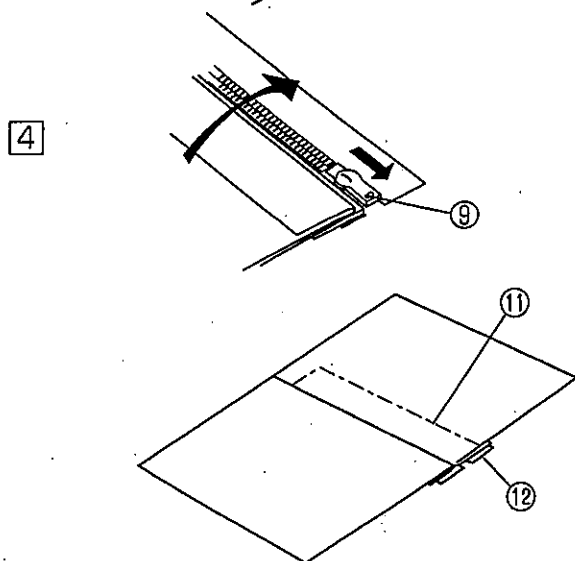
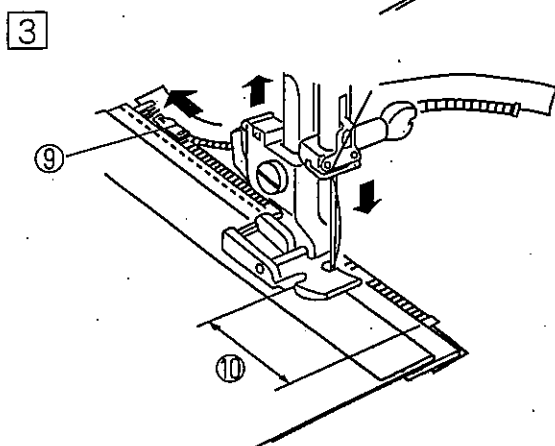
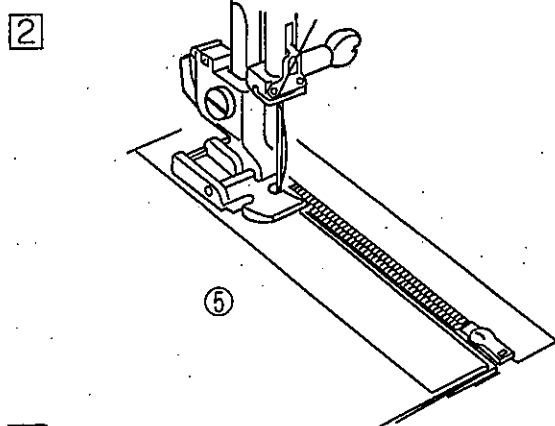
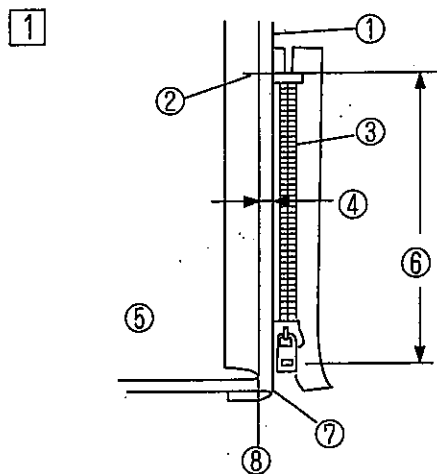
あき部分は、しつけをします。

※ しつけはほどこきやすいように、ぬい目のあかさ「4」(0.4cm)、糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

⑬2cm ⑯あき部分 (しつけ)

⑭返しぬい ⑮あき止まり

⑯地ぬい



【ぬい方】

① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

- ①下の布
- ②あき止まり
- ③むし
- ④0.3cm
- ⑤上の布（裏）
- ⑥あき寸法
- ⑦折り山
- ⑧しつけ線

② 押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

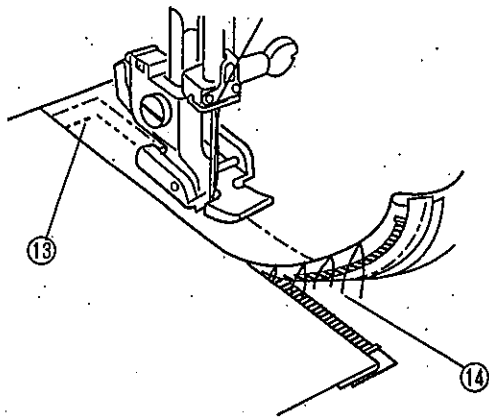
③ ファスナーの端から5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

- ⑨スライダー
- ⑩約5cm

④ ファスナーをとじ、スライダーを上にしたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

- ⑪しつけ
- ⑫台布

5

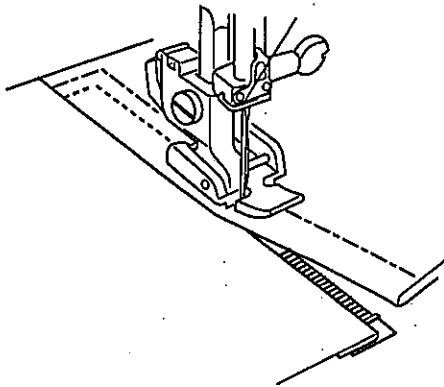


- 5 押さえホルダーをファスナー押さえの左側に付けかえ、上の布のあき止まりを(0.7~1cm)返しぬいます。
 布の向きをかえ、むしのきわに押えの端をあててぬいます。
 ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえをあげて、【準備】2でぬったしつけ糸をほどきます。

⑬返しぬい (0.7~1 cm)

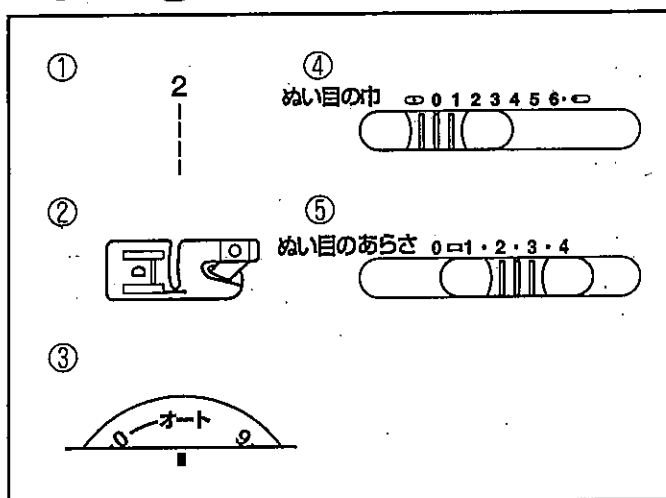
⑭しつけ糸をほどく

6



- 6 スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

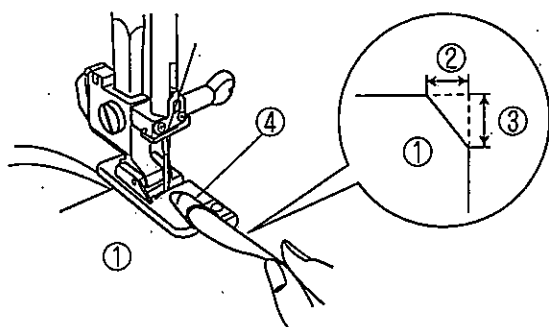
●三つ巻きぬい



ミシンのセット

- ①模様 2
- ②押さえ D 三つ巻き押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 0 ()
- ⑤ぬい目のあかさ 1.5~4

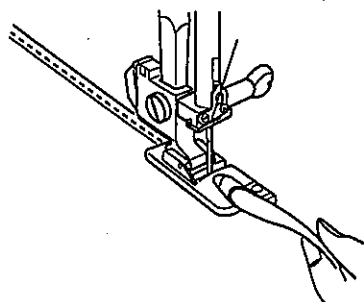
1



- 1 布を巻き込みやすくするため角を少し切り、押さえのうずの中に布を針がとどくところまで入れて、針をさして押さえをさげます。

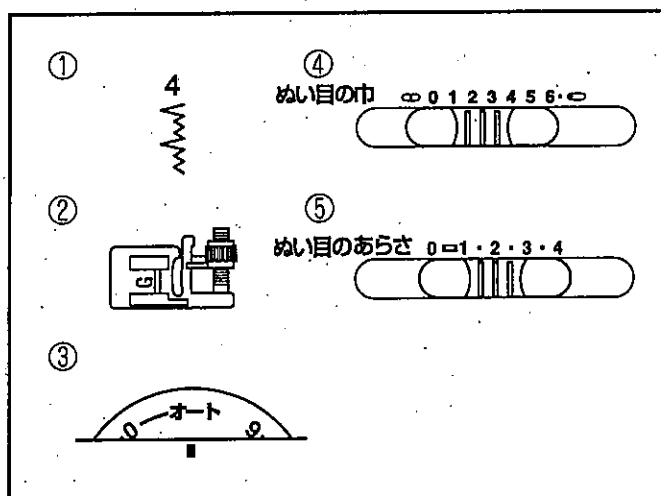
①裏 ②0.5cm ③0.8cm ④押さえのうず

2



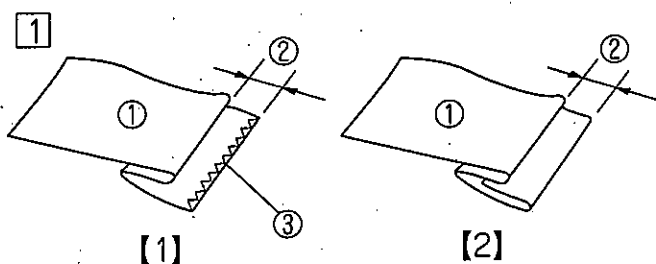
- 2 上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、手ではずみ車を手前に3~4回まわします。
正しく巻き込まれたら、親指と人さし指で布をつまみ、布端を立てて、左寄りに引きぎみに持ち上げながらぬいます。

●くけぬい (まつりぬい)



ミシンのセット

- ①模様 4
- ②押さえ G くけぬい押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 2~3
- ⑤ぬい目のあかさ 1~3

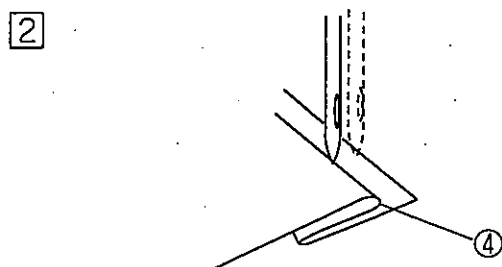


- ① 布の裏を上にして、図のように、布端を0.4~0.7cmほど出して折り込みます。

①裏 ②0.4~0.7cm ③裁ち目かがり

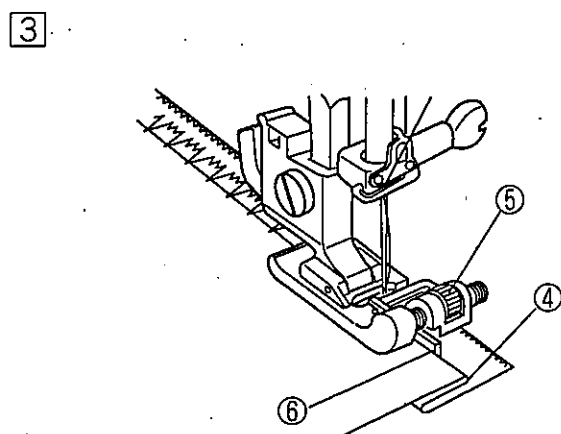
【1】厚い布の場合

【2】うすい布、普通の布の場合



- ② 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえをさげます。

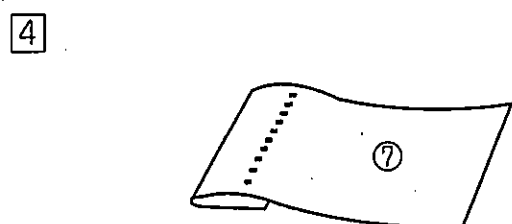
④折り山



- ③ ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山から外れないようにぬいます。

⑤ガイドねじ

⑥ガイド



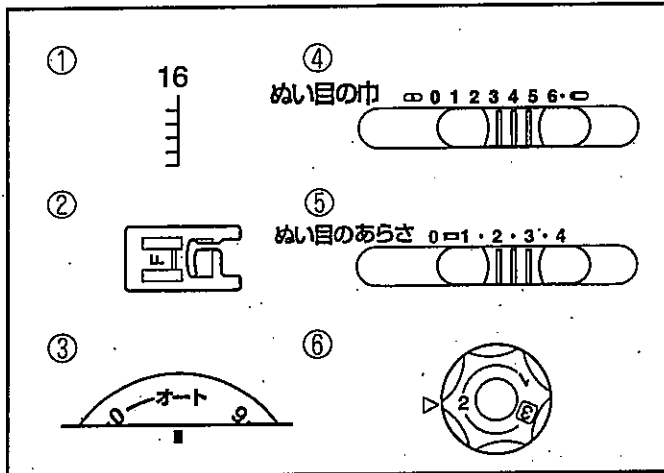
- ④ ぬい終わったら布を表に返します。

⑦表

※左側におりる針が折り山に必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんのでご注意ください。

応用ぬいいろいろ

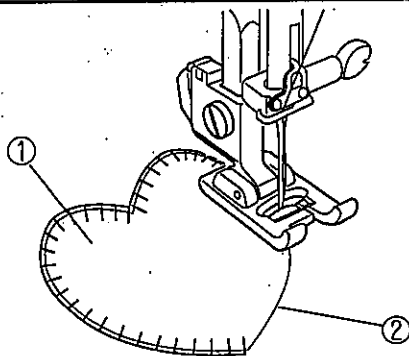
●アップリケ



ミシンのセット

- ①模様 16
- ②押さえ F サテン押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 3~5
- ⑤ぬい目のあさ 合わせる必要はありません。
- ⑥押さえ圧 2

※アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。また、両面接着芯を使うと便利です。



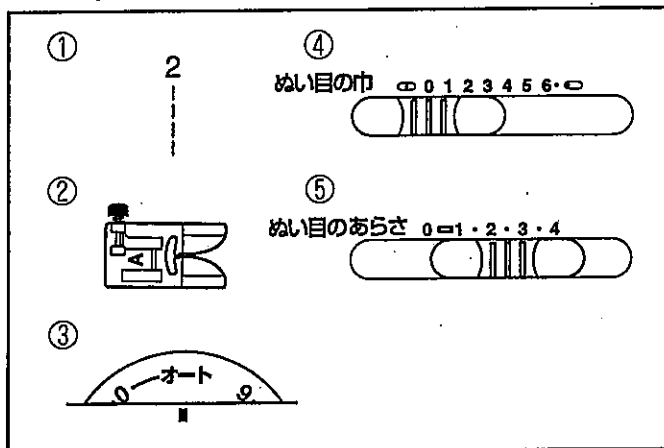
アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

※カーブのところや方向転換をするところではミシンを止め、はずみ車を手前にまわして針を布にさした状態で、押さえをあげて方向をかえるときれいに仕上がります。

※ぬい終わったら、押さえ圧を「3」にもどします。

①アップリケ布 ②ふち

●キルディング

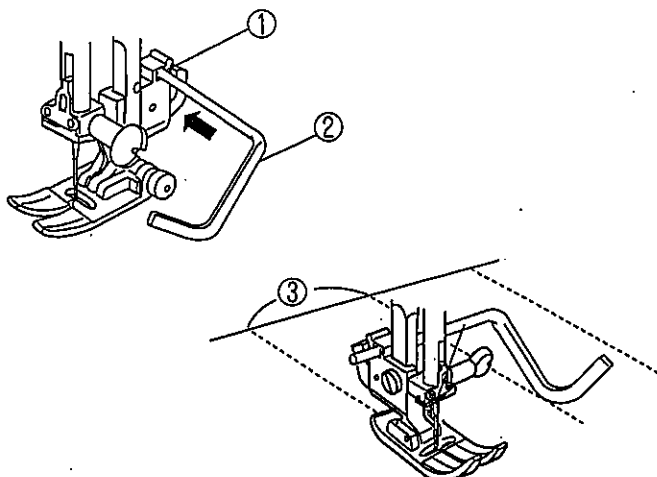


ミシンのセット

- ①模様 2
- ②押さえ A 基本押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 0 () または6.5 ()
- ⑤ぬい目のあさ 1.5~4

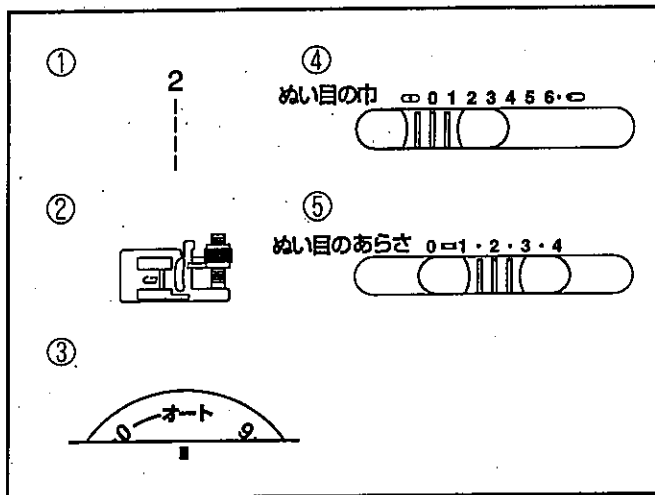
キルターを取り付け穴に入れ、ぬい目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。



- ①キルター取り付け穴
- ②キルター
- ③ぬい目間かく

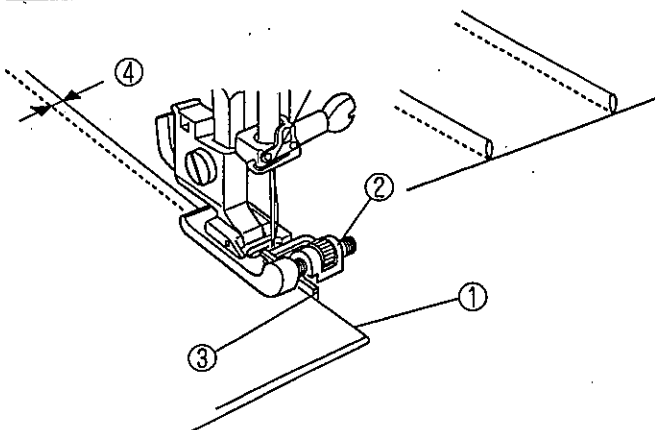
●ピンタック



ミシンのセット

- ①模様..... 2
- ②押さえ G くけぬい押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 0 () または6.5 ()
- ⑤ぬい目のあらかさ 1.5~3

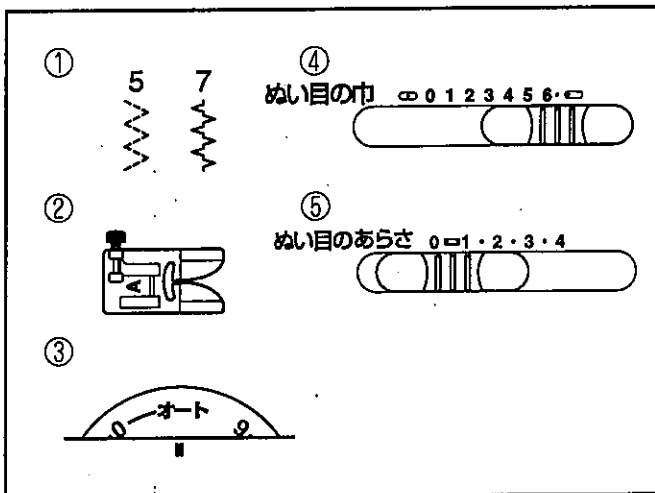
※ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。



はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押さえをおろします。
ガイドねじをまわしガイドを折り山に合わせて、ぬいます。

- ①折り山
- ②ガイドねじ
- ③ガイド
- ④0.1~0.2cm

●パッチワーク

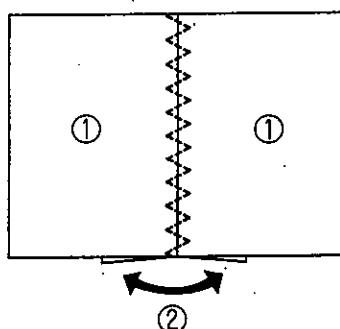


ミシンのセット

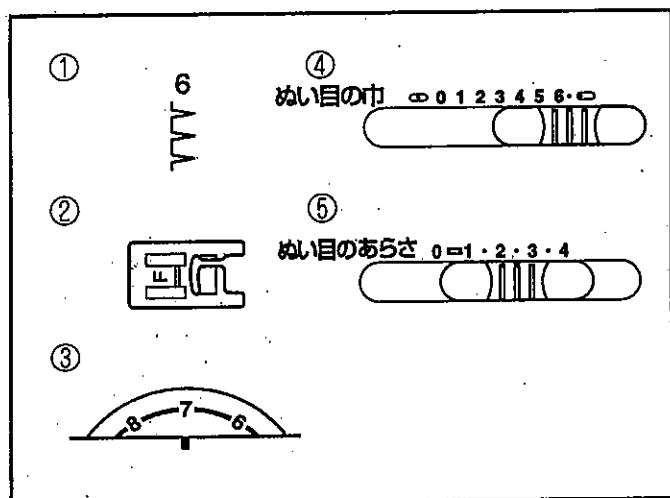
- ①模様..... 5, 7など
- ②押さえ A 基本押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 5~6.5
- ⑤ぬい目のあらかさ 模様5, 7: 0.5~1

布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。
布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

- ①表
- ②ぬいしろを割る



●シェルタック



ミシンのセット

- ①模様 6
- ②押さえ F サテン押さえ
- ③糸調子 6~8
- ④ぬい目の巾 5~6.5
- ⑤ぬい目のあらし 2~3

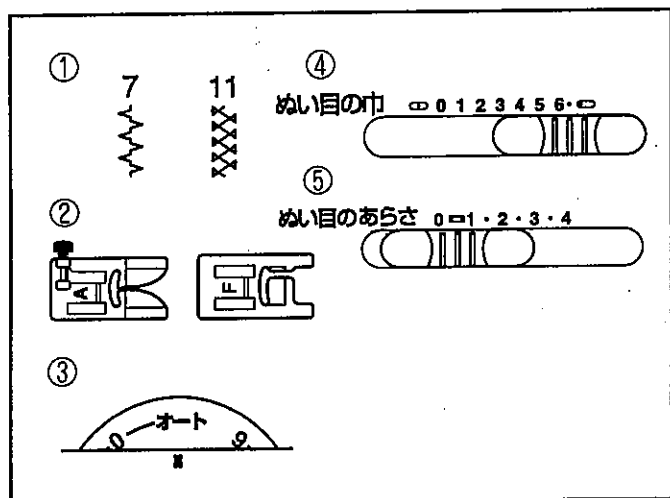
※糸調子は、試しぬいをして、シェルタックの山がきれいにできるように調整します。

うす手の布をバイヤスに2つ折りにします。
針が右にきたとき、布の折り山の外側ぎりぎりをぬっていきます。

※ぬい終わったあと、布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

①折り山

●ファゴティング

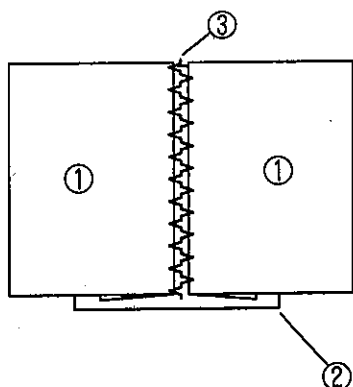


ミシンのセット

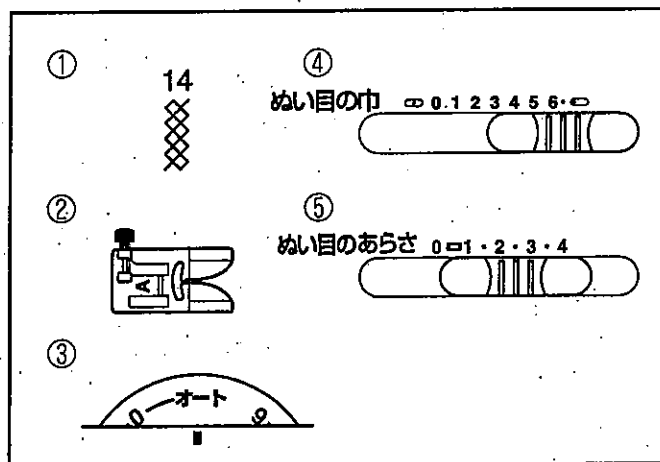
- ①模様 7, 11など
- ②押さえ A 基本押さえ
(またはF サテン押さえ)
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 5~6.5
- ⑤ぬい目のあらし 模様7 : 0.5~1
模様11 : 合わせる必要はありません。

- ① 布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて、下に
あて紙をおきます。
- ② 布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。
- ③ あて紙をとります。

①表 ②あて紙 ③0.3~0.4cmあける

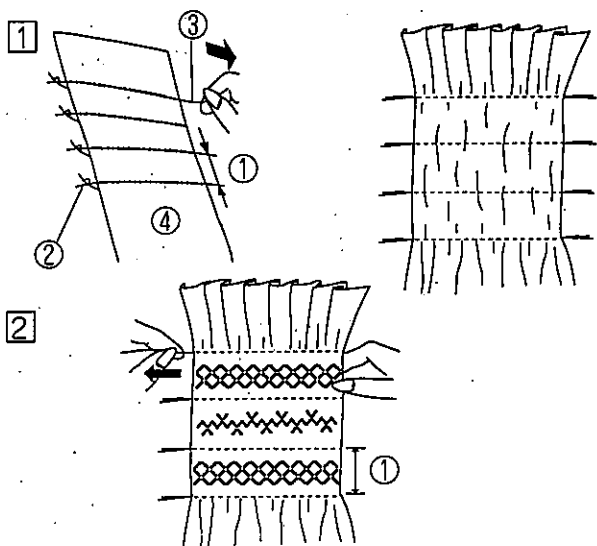


●スモッキング



ミシンのセット

- ①模様 14など
- ②押さえ A 基本押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 3~6.5
- ⑤ぬい目のあらし 模様14: 合わせる必要はありません。

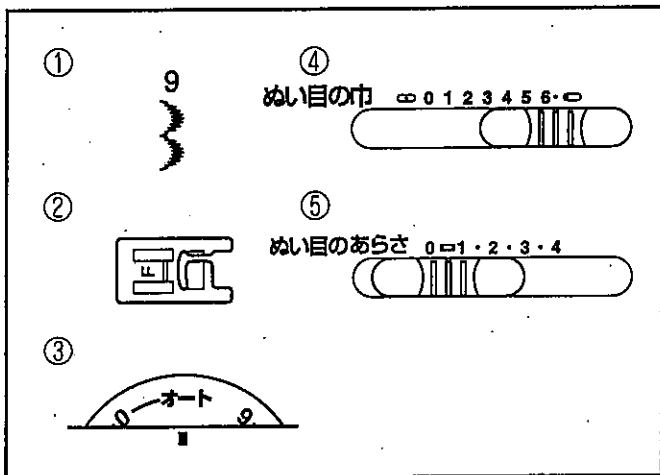


- ① 糸調子を「1」～「3」、ぬい目のあらし「3」～「4」の直線ぬいを、1cm間かくで数本ぬい、上糸と下糸を布の片側で結びます。結んだ糸の反対側から下糸を引いてひだをよせ上糸と下糸を結びます。

① 1cm間かく ② 結ぶ ③ 下糸 ④ 裏

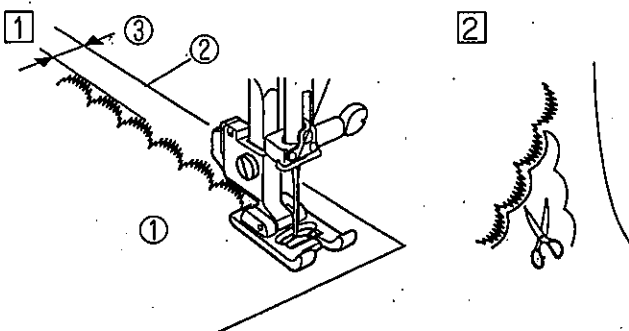
- ② 直線ぬいの糸と糸のあいだに模様ぬいをします。直線ぬいの糸を抜きとります。

●スカラップ



ミシンのセット

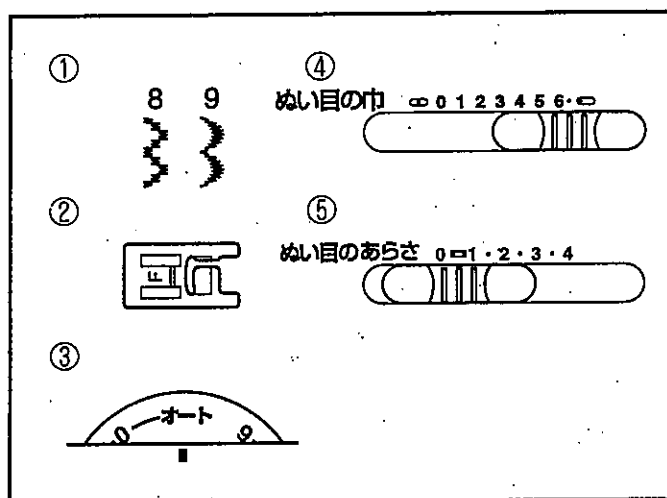
- ①模様 9
- ②押さえ F サテン押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 3~6.5
- ⑤ぬい目のあらし 0.5~1



- ① 布の表から、布端を1cmくらい残してぬいます。
- ② 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

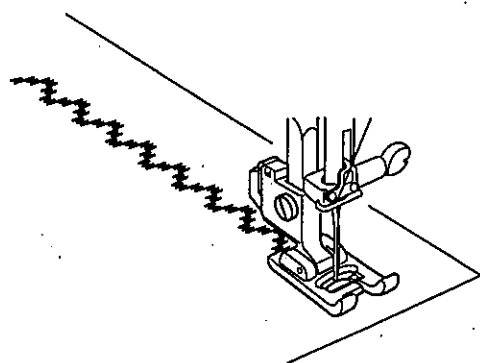
① 表 ② 布端 ③ 1cm

●かざりぬい



ミシンのセット

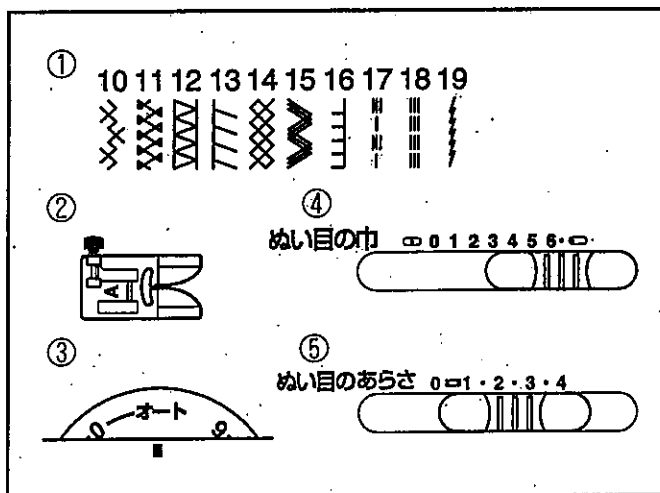
- ①模様..... 8, 9
- ②押さえ Fサテン押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 3~6.5
- ⑤ぬい目のあかさ 0.5~1



ぬい目のあさが細かすぎると、つまることがあるので、試しぬいをして調節してください。

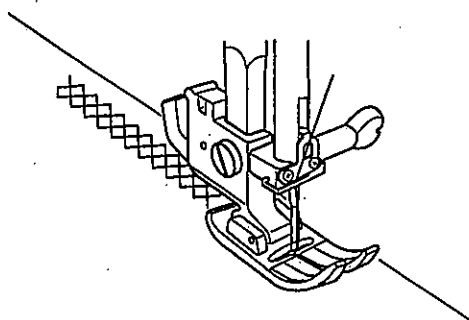
※布が縮むときは、布の下に紙を敷くか、接着芯を貼るときれいに仕上がります。

●スーパー模様ぬい



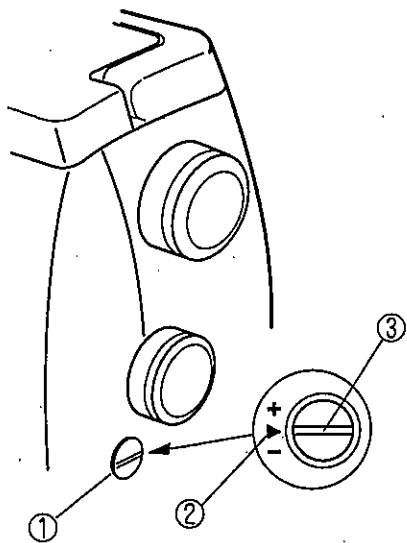
ミシンのセット

- ①模様 10～19
- ②押さえ A基本押さえ
- ③糸調子 オート
- ④ぬい目の巾 3～6.5
(模様17・18は、0または6.5)
- ⑤ぬい目のあらかさ 合わせる必要はありません。



布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

模様が整わないときは、【スーパー模様の形の整え方】をごらんください。



【スーパー模様の形の整え方】

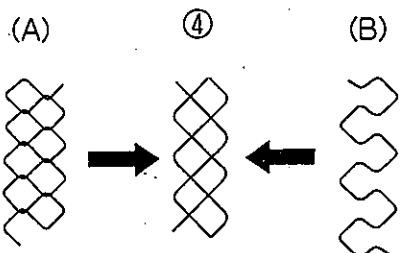
布の種類、枚数、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合があります。

実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで、つぎのように調節してください。

・図(A)のように模様がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

・図(B)のように模様が伸びているときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。

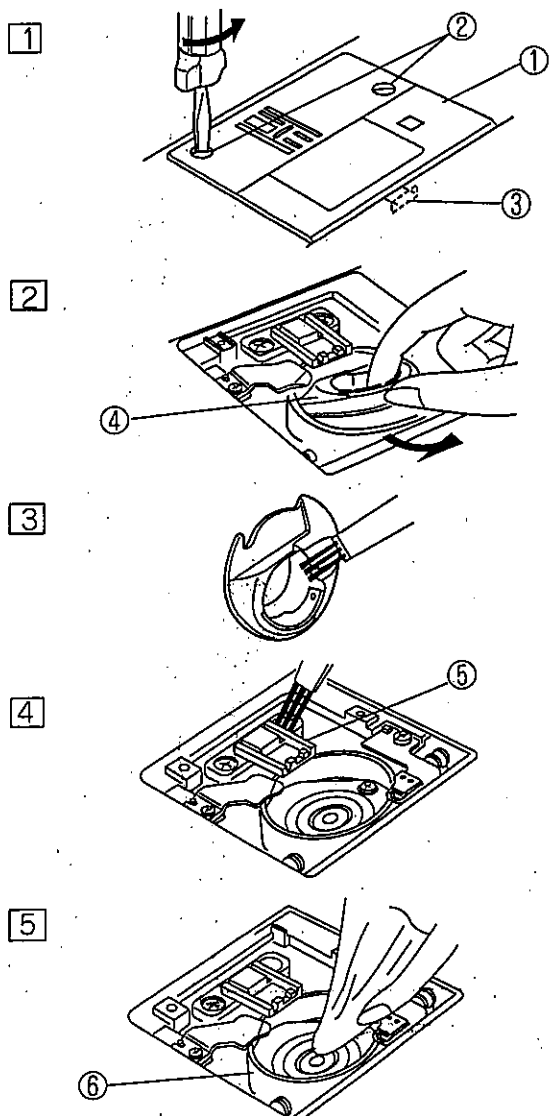
※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。



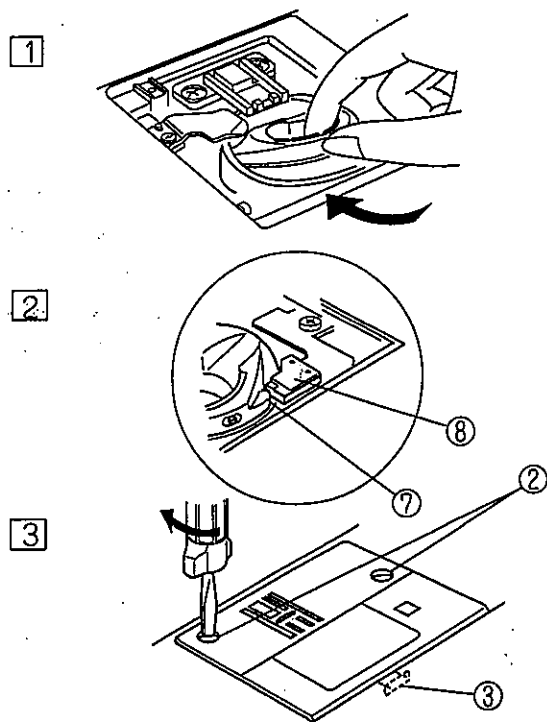
- ①送り調節ねじ
- ②標準指示マーク
- ③指示線
- ④正しい形

ミシンの手入れ

●かまと送り歯の掃除



●内がまと針板の組み付け



△注意

お手入れのときは…

- ◎ 押さえと針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ◎ 説明されている箇所以外は分解しないでください。

感電・火災・けがの原因になります。

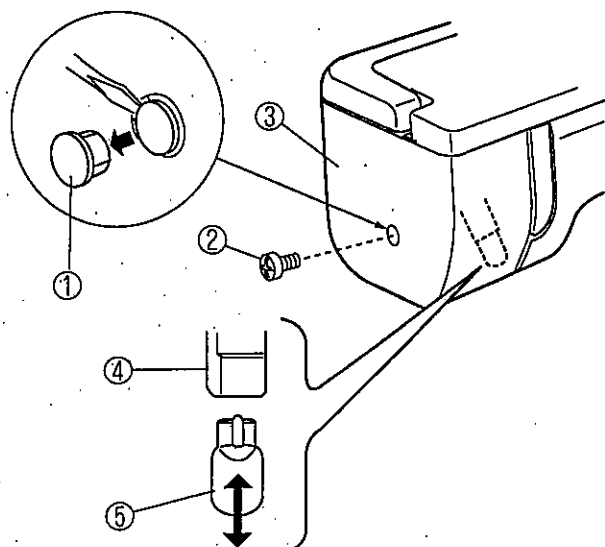
- ① 針と押さえを外します。
2カ所の止めねじを外し、フックを外して、針板を外します。
①針板 ②止めねじ ③フック
- ② ボピンを取り出し、内がまの手前を上へ引きながら外します。
④内がま
- ③ 内がまをブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。
- ④ 送り歯のごみをブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
⑤送り歯
- ⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
⑥外がま

※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

- ① 内がまを差し込みます。
- ② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
⑦凸部 ⑧回転止め
- ③ ボピンを入れ、フックを合わせて針板を取り付け、止めねじをしめます。

※お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえを付けてください。

●ランプの取りかえ



△注意

ランプを取りかえるときは、必ず、電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。ランプは、冷えてから外してください。感電・やけどの原因になります。

【外し方】

① キャップ外してから止めねじを外し、面板を外します。

② ランプをそっと引き抜きます。

【付け方】

③ ランプをソケットの穴に合わせながら差し込みます。

④ 面板を止めねじで固定します。
キャップを付けます。

- ① キャップ
- ② 止めねじ
- ③ 面板
- ④ ランプソケット
- ⑤ ランプ

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	13 ページ参照 9 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 15・18 ページ参照 19 ページ参照 10 ページ参照
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	12 ページ参照 39 ページ参照 ボビンを交換する
針がおれる。	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲っている。 2. 針止めねじのしめ付けが、ゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布にくらべて針が細すぎる。	10 ページ参照 10 ページ参照 19 ページ参照 10 ページ参照
ぬい目がとぶ。	1. 針の付けかたがまちがっているか、針が曲っている。 2. 布に対して、針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販SP針）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 13 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布にくらべて針が太すぎる 4. 布にくらべてぬい目があらずすぎる。 5. 押さえ圧が合っていない。 *特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	9 ページ参照 12・13 ページ参照 10 ページ参照 ぬい目を細かくする 8 ページ参照
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	39 ページ参照 ぬい目をあらくする 8 ページ参照
ぬい目に輪ができる。	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	9 ページ参照 10 ページ参照
ぬいずれがおこる。	1. 押さえ圧が合っていない。	8 ページ参照
ミシンがまわらない。	1. コンセントに、プラグがきちんと差し込まれていない。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、もとにもどっていない。（糸巻状態になっている）	6 ページ参照 39 ページ参照 11 ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1. 布に対して、ぬい目のあさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びにくい芯地を使っていない。	24 ページ参照 24 ページ参照
音が高い。	1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	39 ページ参照 39 ページ参照

EQULE 940 早見表

エクール

	1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 
ぬい目の巾	4-6.5	0, 6.5	1-6.5	2-3	3-6.5	5-6.5	5-6.5	3-6.5	3-6.5
ぬい目のあらさ	0.5-1	1.5-4	0.5-3	1-3	0.5-2	2-3	0.5-1	0.5-1	0.5-1
糸調子	オート	オート	オート	オート	オート	6-8	オート	オート	オート
押さえ	R	A	A	G	A	F	A	F	F

	10 	11 	12 	13 	14 	15 	16 	17 	18 	19 
ぬい目の巾	3-6.5	3-6.5	5-6.5	5	3-6.5	3-6.5	3-5	0, 6.5	0, 6.5	5-6.5
ぬい目のあらさ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
糸調子	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート	オート
押さえ	A	A	A	C	A	A	F	F	A	A

本社移転のお知らせ

平素は弊社製品のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。
さて、この度、弊社は下記に本社を移転することとなりましたので
お知らせ申し上げます。
今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

●移転先

住 所 〒193-0941 東京都八王子市狹間町 1463 番地
電 話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル)
042 - 661 - 2600
受付 平日 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)
ホームページ <http://www.janome.co.jp>
メールでのお問い合わせ customer@gm.janome.co.jp

●移転日

2009 年 7 月 6 日

※旧住所 〒104-8311 東京都中央区京橋 3 丁目 1 番 1 号
旧電話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル) 変更なし
03 - 3277 - 2200

蛇の目ミシン工業株式会社

101013002